

Sun ONE Application Server 7 リリースノート

バージョン 7, Update 1

Part No. 817-2785-05

2003 年 10 月

このリリースノートには Sun™ Open Network Environment (ONE) Application Server, Update 1 のリリース時における重要な情報が含まれています。新しい機能および拡張機能、インストール時の注意、既知の問題、および最近見つかったその他の問題点が記載されています。Sun ONE Application Server 7, Update 1 を使用する前に、このリリースノートと関連マニュアルをお読みください。

本書の構成は次のとおりです。

- Sun ONE Application Server 7 の新機能
- Sun ONE Application Server 7 のプラットフォーム
- マニュアル
- アクセシビリティ
- ソフトウェアおよびハードウェアの要件
- アップグレードノート
- 解決済みの問題点
- 既知の問題と制限事項
- 問題の報告方法
- 詳細情報について
- 改訂履歴

Sun ONE Application Server 7 の新機能

Sun ONE Application Server 7, Update 1 の新機能については、『Sun ONE Application Server の新機能』を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.asse?l=ja#hic>

Sun ONE Application Server 7 のプラットフォーム

Sun ONE Application Server 7, Update 1 製品でサポートされるプラットフォームについては、『Sun ONE Application Server のプラットフォーム』を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.asse?l=ja#hic>

マニュアル

Sun Microsystems 製品の全マニュアルは、次の URL から参照できます。

<http://docs.sun.com/>

この節では次の項目について説明します。

- Sun ONE Application Server 7 のマニュアル
- 関連マニュアル
- アクセシビリティ

Sun ONE Application Server 7 のマニュアル

Sun ONE Application Server 7, Update 1 には、完全なマニュアルセットが付属しています。Update 1 のマニュアルには、従来の Sun ONE Application Server 製品のマニュアルとは異なる製品番号がついています。

注	<p>Sun ONE Application Server 7, Update 1 のリリース後に登録されるマニュアルもあるので、Sun のマニュアル掲載サイトで利用できなかったマニュアルについては、しばらくしてから再度確認してください。</p> <p>重大な問題が生じた際は、マニュアルを改訂することもあります。改訂したマニュアルは、このサイトに登録されます。最終更新日は、HTML 版マニュアルの目次の右上に表示されます。</p>
----------	---

Sun ONE Application Server 7, Update 1 のマニュアルは、次の URL から参照できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.asse?l=ja#hic>

Sun ONE Application Server の各マニュアルの製品番号と概要を次に示します。

- 『製品の概要』 - (Part No. 816-6476-10) Sun ONE Application Server 7 について説明します。製品の各エディションで利用できる機能についても説明します。
- 『アーキテクチャの概要』 - (Part No. 816-6479-10) 図表を使用しながら、サーバーアーキテクチャについて説明します。さらに、Sun ONE Application Server アーキテクチャの利点についても説明します。
- 『新機能』 - (Part No. 816-6477-10) 企業、開発者、および運用向けの、Sun ONE Application Server 7 の新機能を一覧表示します。
- 『プラットフォーム』 - (Part No. 816-6855-10) サポート対象のハードウェア、オペレーティングシステム、JDK、JDBC、RDBMS を一覧表示します。
- 『入門ガイド』 - (Part No. 817-0599-10) Sun ONE Application Server 7 の基本的な使用方法について説明します。初期開発を行う開発者向けの内容ですが、製品評価の担当者が参考にできる情報も含まれています。
- 『インストールガイド』 - (Part No. 816-6858-10) Sun ONE Application Server とそのコンポーネント (サンプルアプリケーション、管理インタフェース、Sun ONE Message Queue) のインストール方法について説明します。
- 『サーバーアプリケーションの移行および再配備』 - (Part No. 817-0603-10) 新しい Sun ONE Application Server プログラミングモデルに従ってアプリケーションを移行する方法について説明します。特に、iPlanet™ Application Server 6.x、Netscape Application Server 4.0 からの移行について詳しく取り上げます。移行例も付属しています。
- 『開発者ガイド』 - (Part No. 816-6859-10) 開発者向けマニュアルの中で最も重要なマニュアルです。サーブレット、Enterprise JavaBeans™ (EJB™)、JavaServer Pages (JSP™)、各種 J2EE コンポーネントについて規定した Java のオープンスタンダードモデルに準拠し、Sun ONE Application Server 上で動作する J2EE アプリケーションの基本的な作成方法について説明します。これらの方法については、次の項目で説明します。J2EE アプリケーションの設計、セキュリティ、配備、デバッグ、ライフサイクルモジュールの作成方法などについて取り上げます。Sun ONE Application Server のさまざまな用語について解説する用語集も付属しています。
- 『Web アプリケーション開発者ガイド』 - (Part No. 816-6856-10) J2EE アプリケーションにおけるサーブレットや JavaServer Pages (JSP) の使用方法と、SHTML および CGI の使用方法について説明します。結果キャッシュ機能、JSP のプリコンパイル、セッション管理、セキュリティ、配備などについて取り上げます。
- 『Enterprise JavaBeans 開発者ガイド』 - (Part No. 817-0605-10) Sun ONE Application Server 環境におけるエンタープライズ Bean の開発および配備について説明します。コンテナ管理持続性、読み取り専用 Bean、エンタープライズ Bean に関連付けられた XML ファイルや DTD ファイルなどについて取り上げます。
- 『Developer's Guide to J2EE Services and APIs』 - (Part No. 817-2177-10) データベース接続 (JDBC)、Java ネーミングおよびディレクトリインタフェース (JNDI)、Java トランザクションサービス (JTS)、Java メッセージサービス (JMS)、JavaMail といった J2EE の機能について説明します。

- 『Developer's Guide to NSAPI』 - (Part No. 817-2177-10) NSAPI プラグインの作成方法について説明します。
- 『Developer's Guide to Web Services』 - (Part No. 817-2174-10) Sun ONE Application Server 環境における Web サービスの開発および配備について説明します。
- 『Developer's Guide to Clients』 - (Part No. 817-2173-10) Sun ONE Application Server 7 の J2EE アプリケーションにアクセス可能な Application Client Container (ACC) クライアントの開発および配備について説明します。
- 『管理者ガイド』 - (Part No. 816-6857-10) 管理者向けマニュアルの中で最も重要なマニュアルです。管理インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使った Sun ONE Application Server サブシステムと各種コンポーネントの設定、管理、配備について説明します。Sun ONE Application Server のさまざまな用語について解説する用語集も付属しています。
- 『管理者用設定ファイルリファレンス』 - (Part No. 816-6480-10) server.xml ファイルをはじめとする Sun ONE Application Server の設定ファイルの内容について説明します。
- 『セキュリティ管理者ガイド』 - (Part No. 816-6482-10) Sun ONE Application Server 7 の J2EE アプリケーションにアクセス可能な Application Client Container (ACC) クライアントの設定および管理について説明します。
- 『管理者ガイド J2EE CA Service Provider Implementation』 - (Part No. 816-6481-10) Sun ONE Application Server 環境の JCA SPI 実装機能の設定および管理について説明します。管理ツール、プーリングモニター、JCA コネクタの配備、サンプルコネクタとサンプルアプリケーションなどについて取り上げます。
- 『パフォーマンスチューニングガイド』 - (Part No. 816-6485-10) Sun ONE Application Server を使ってパフォーマンスを改善する方法と、なぜそうする必要のあるかについて説明します。
- 『Error Messages Reference』 - (Part No. 817-2182-10) Sun ONE Application Server の全エラーメッセージについて解説します。
- コマンド行インタフェースのマニュアルページ - コマンド行インタフェースで実行する全コマンドについて解説します (XML 形式、英語のみ)。
- ユーティリティのマニュアルページ - Sun ONE Application Server の全ユーティリティコマンドについて解説します (XML 形式、英語のみ)。
- 管理インタフェースのオンラインヘルプ - Sun ONE Application Server のグラフィカルな管理インタフェースのコンテンツ型オンラインヘルプです。
- Sun ONE Studio 4 Enterprise Edition for Java with Application Server 7 チュートリアル - Sun ONE Studio 4 を Sun ONE Application Server とともに使用方法について説明します。
- Sun ONE Application Server Studio のオンラインヘルプ - Sun ONE Studio 4 に統合された Sun ONE Application Server モジュールのコンテンツ型オンラインヘルプです。

関連マニュアル

他の Sun ONE 製品のマニュアルは、Sun ONE Application Server のマニュアルで参照されている場合があります。

Sun ONE Message Queue マニュアル

Sun ONE Application Server に統合された Sun ONE Message Queue (iPlanet Message Queue) サブシステムには、独自のマニュアルセットが存在します。次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.s1msgqu?l=ja#hic>

Sun ONE Studio 4 マニュアル

Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition 製品は、Sun ONE Application Server をバンドルしており、独自のマニュアルセットがあります。次の URL を参照してください。

- Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition マニュアル

<http://docs.sun.com/db/coll/790.3>

- その他の Sun ONE Studio 4 マニュアルも参考にしてください。

<http://jp.sun.com/products/software/tools/jde/documentation/index.html>

アクセシビリティ

Sun ONE Application Server 製品のマニュアルは、補助機能を使って読むことができる形式で提供されます。

Sun ONE Application Server は、製品を見やすく、使いやすい形式にカスタマイズする補助機能を提供しています。次のような機能があります。

- ニーモニックおよびキーボードのショートカット
- カスタマイズ可能なフォント
- カスタマイズ可能な色
- カスタマイズ可能なツールバー
- カスタマイズ可能なスタイルシート

注 Solaris™ オペレーティングシステムでは、ウィンドウ・スタイル・マネージャを使って画面の動作を設定します。ニーモニックを使用している場合は、画面の動作を「クリックでウィンドウをアクティブに」に設定します。これに設定していないと、ニーモニックがエラーになる場合があります。

Sun ONE Application Server の HTML オンラインヘルプを変更するには、ヘルプディレクトリに保存されているスタイルシートを編集します。

`server_root/lib/install/applications/admingui/adminGUI_war/help`

管理サーバーを再起動して、変更を有効にします。

ソフトウェアおよびハードウェアの要件

Sun ONE Application Server 7, Update 1 製品でサポートされるプラットフォームについては、『Sun ONE Application Server プラットフォーム』を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.asse?l=ja#hic>

Sun ONE Application Server の要件を次の表に示します。

オペレーティングシステム	アーキテクチャ	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量
UNIX					
<ul style="list-style-type: none"> Sun Solaris 8 または 9 SPARC 版 	32 ビット / 64 ビット	256Mバイト (Sun ONE Studio を使用しない場合)	512M バイト	250M バイト	500M バイト
<ul style="list-style-type: none"> Solaris 9 Update 2 x86 版、(Solaris バンドル版および Sun Java Enterprise System のみ) 	32 ビット	512Mバイト (Sun ONE Studio を使用する場合)			
Microsoft Windows					
<ul style="list-style-type: none"> Windows 2000 Advanced Server、SP2 Windows 2000 Server、SP2 Windows 2000 Professional、SP2 Windows XP Professional 	Intel 32 ビット	256Mバイト (Sun ONE Studio を使用しない場合)	256M バイト (Sun ONE Studio を使用しない場合)	250M バイト	500M バイト
		256Mバイト (Sun ONE Studio を使用する場合)	512M バイト (Sun ONE Studio を使用する場合)		

Solaris パッチ

Solaris 8 システムには、次の URL の「パッチサポートポータル」から「推奨 & セキュリティパッチ」に記載されている Sun 推奨パッチクラスタをインストールする必要があります。

<http://jp.sunsolve.sun.com/>

Solaris 8 システムには、パッチ番号 109326-06、108827-26、およびパッチ番号 110934 のパッチを必ずインストールしてください (全リビジョン対象。パッケージベースのインストールのみ)。これらの必須パッチは、インストーラによってチェックされます。これらのパッチがインストールされていないと、Sun ONE Application Server をインストールすることも実行することもできません。最新の推奨パッチクラスタには、これらのパッチが最初から含まれています。

アップグレードノート

以前のバージョン Sun ONE Application Server 7 から Sun ONE Application Server 7, Update 1 にアップグレードする場合は、ダウンロードサイトからアップグレードのアーカイブを選択します。Sun ONE Application Server, Update 1 の詳細については、次の URL にある『Sun ONE Application Server Update 1 インストールガイド』に記載されています。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.asse?l=ja#hic>

注

アップグレードプログラムは、簡体中国語や日本語では使用できません。そのため、簡体中国語や日本語の環境で、既存のバージョンを Sun ONE Application Server 7, Update 1 にアップグレードする場合は、アンインストールプログラムで既存のバージョンの Sun ONE Application Server をアンインストールしてから、Sun ONE Application Server, Update 1 を完全インストールする必要があります。インストールの手順は『Sun ONE Application Server 7, Update 1 インストールガイド』で説明しています。

解決済みの問題点

ここでは Sun ONE Application Server 7, Update 1 で解決されている問題点を一覧表示します。

ID	要約
4717324	RMI-IIOP クライアントからサーバーにセキュリティ情報が到達しない
4735625	オンラインヘルプで管理インタフェースのプロファイラページの使用方法に関する説明が不十分
4737808	JAR 配備が無効な場合、理解不能なメッセージが発生する
4740476	オンラインヘルプに「ベリファイア」と「JSP をプリコンパイル」に関する説明がない
4742620	asadmin deploy コマンドに関するマニュアルに誤りがある
4745637	検索メソッドと選択メソッドのオーバーロードによりパラメータエラーが発生する
4748351	キーカラムがキーフィールドにマップされない
4755711	Sun ONE Application Server 7 上でアプリケーションをテストすると、無効な '<' の引数が発生する
4756093	サーバーの再起動後、配備済みの CMP ベースのアプリケーションを再配備できない
4756981	配備を行なっている間、アクセス権にエラーが発生する
4758671	国際化に関する問題: JA ロケールでは、asadmin ヘルプがマニュアルを取得できない
4764931	11 個の CMP ファインダが、配備後に複製されて倍になる
4765588	プロキシプラグインの設定手順に誤りがある
4766638	Sun ONE Studio 4 プラグインのインストールシナリオが入っていない
4768721	パッケージ化されていないインストールでは、libnspr_flt4.so を読み込まないので、パフォーマンスが低下する
4768847	サブディレクトリがある EAR ファイルを配備できない
4769194	Sun ONE Application Server 7 は、JSP をコンパイルする際、例外をスローする
4770733	CORBA Tie オブジェクトが、2 つの異なるテーブルにキャッシュされる
4770939	EJB の Commit C オプションに無効な実装がある
4771005	ClientRequestInterceptor の使用中には、PIORB の実行が遅くなる
4774848	プロキシプラグインからクライアント証明書の認証を実行できない
4776350	com.sun.enterprise.util.Utility.getPropertiesFromFile は、JavaWebStart と競合する

ID	要約
4778410	クエリの制約で 2 つのコレクション関係をナビゲートすると、EJBQL プロジェクションは失敗する
4782108	Web アプリケーション間で、RequestDispatcher を使ってサーブレットを呼び出すと障害が発生する
4783983	国際化に関する問題: sendredirect を使って、日本語ファイルまたは URL をリダイレクトできない
4787940	Sun ONE Application Server JVM から独立したスタンドアロンでクライアントを実行していると、per-thread-client ログインプログラムが動作しない
4811414	デフォルトのポリシーファイルでは、IasUtilDelegate で最適化できない
4812427	国際化に関する問題: Microsoft Windows の場合: 一時ファイルが英語で表示される
4812717	国際化に関する問題: 情報を更新すると、英語で表示される
4813680	Sun ONE Web Server 6 から Sun ONE Application Server 7 へのパススルーが正しく実行されない
4823065	国際化に関する問題: 言語だけを使用して (国名を使用しない)、管理インタフェースのページを読み込む

既知の問題と制限事項

この節では、Sun ONE Application Server 7, Update 1 の既知の問題とその回避方法について、次の項目別に解説します。

注	問題の説明にプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに当てはまります。
---	--

この節は次の項目から構成されています。

- インストールとアンインストール
- サーバーの起動とシャットダウン
- データベースドライバ
- Web コンテナ
- EJB コンテナ
- コンテナ管理持続
- Message Service とメッセージ駆動型 Beans
- Java Transaction Service (JTS)
- アプリケーションの配備
- ベリファイア
- 設定
- 配備記述子
- 監視
- サーバーの管理
- Sun ONE Studio 4 プラグイン
- サンプルアプリケーション
- ORB/IIOP リスナー
- 国際化 (i18n)
- Solaris x86 プラットフォーム (Solaris バンドル版および Java Enterprise System のみ)
- マニュアル

インストールとアンインストール

この節では、インストールとアンインストールに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4403166	<p data-bbox="239 383 1219 444">Microsoft Windows では、パッケージ、パス、またはアプリケーションの名前が 255 文字より長いと、アプリケーションの配備に失敗する</p> <p data-bbox="239 461 1219 548">Microsoft Windows では、JDK の制約により長いパッケージ名やパス名はサポートされません。配備用ツールは、配備中にアーカイブからクラスファイルを抽出しようとします。展開したときの名前が 255 文字より長い場合、抽出は失敗します。</p> <ul data-bbox="239 565 586 591" style="list-style-type: none"> • 長いアプリケーション名の例 <p data-bbox="239 609 1186 635"><code>servlet_jsh_HttpServletRequestWrapper.ear</code> などの J2EE アプリケーション名</p> <ul data-bbox="239 652 515 678" style="list-style-type: none"> • 長いパッケージ名の例 <p data-bbox="239 696 858 722">このサーブレットが次のようなパッケージに存在する場合</p> <pre data-bbox="239 739 1219 861">servlet_jsh_HttpServletRequestWrapper_1¥servlet_jsh_HttpServletRequestWrapper_servlet_war¥WEB-INF¥classes¥tests¥javax_servlet_http¥HttpServletRequestWrapperHttpServletRequestWrapperConstructorTestServlet.class</pre> <ul data-bbox="239 878 444 904" style="list-style-type: none"> • 長いパス名の例 <p data-bbox="239 921 1219 982">Sun ONE Application Server が、<code>drive:¥>Sun ApplicationServer</code> にインストールされている場合</p> <p data-bbox="239 999 315 1025">解決法</p> <p data-bbox="239 1043 629 1069">次のいずれかの解決法を選択します。</p> <ol data-bbox="239 1086 1219 1277" style="list-style-type: none"> 1. インストール中に短いディレクトリ構造を作成します。たとえば、デフォルトの <code>drive:¥Sun Apsserver7</code> の代わりに <code>drive:App</code> を使用します。 2. <code>create_instance</code> コマンドを使用して、インスタンスの名前を短いものに変更します。たとえば <code>/instance1/domain1/</code> を <code>/i/d</code> などに変更します。 3. 短いパッケージ名、パス名およびアプリケーション名にします。

ID	要約
4687768	<p data-bbox="319 239 1286 302">Solaris setup-SDK/JDK で、X ウィンドウを使用しないマシンにコマンド行モードでインストールしようとするエラーが発生する</p> <p data-bbox="319 321 1305 465">X ウィンドウライブラリがない Solaris システムでは、Sun ONE Application Server インストーラを実行できません。これは、コマンド行モードを使用する場合も同じです。SDK または Webstart の設定ウィザードのインストールフレームワークで使用される AWT オブジェクトを初期化しようとする、インストーラから <code>java.lang.UnsatisfiedLinkError</code> がスローされます。</p> <p data-bbox="319 484 396 513">解決法</p> <ol data-bbox="319 532 1286 668" style="list-style-type: none">1. X ウィンドウのサポートパッケージをインストールしてください。このパッケージは、Sun ONE Application Server のインストールが完了したら削除します。2. <code>pkgadd</code> コマンドで Sun ONE Application Server パッケージをインストールします。次に、<code>asadmin</code> コマンドで初期ドメインを作成します。
4719600	<p data-bbox="319 678 843 708">インストール時に警告メッセージが表示される</p> <p data-bbox="319 727 1296 782">インストール時に、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。次に例を示します。</p> <pre data-bbox="319 802 1272 887">WARNING: Couldn't flush system prefs:java.util.prefs.BackingStoreException:Couldn't get file lock. WARNING: Could not lock System prefs.Unix error code -223460600.</pre>
4737663	<p data-bbox="319 1055 1286 1117">Solaris 環境では、パッケージベースの製品と通常の製品を両方インストールすると競合が発生する</p> <p data-bbox="319 1137 1305 1251">パッケージベースの製品 (Solaris 9 バンドル版) とインストーラベースの通常の製品を両方インストールすると、競合が発生します。これらの製品は同一の Sun ONE Message Queue ブローカを共有します。このため、ドメイン名やインスタンス名が一意でないと、2 番目のドメインまたはインスタンスを起動するときに次のようなメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="319 1270 1058 1326">SEVERE:JMS5024: JMS サービスのスタートアップに失敗しました SEVERE:CORE5071: 初期化中にエラーが発生しました</pre> <p data-bbox="319 1345 1296 1400">デフォルトのドメイン名とインスタンス名が両製品に共通であるという点には、特に注意が必要です。</p> <p data-bbox="319 1420 396 1449">解決法</p> <p data-bbox="319 1468 1079 1496">『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の説明に従ってください。</p>

ID	要約
4742038	<p>Sun ONE Application Server がインストールディレクトリの名前に英数字以外の文字が含まれていると起動しない</p> <p>インストールディレクトリの名前に英数字以外の文字 (#、空白文字など) が含まれていると、Sun ONE Application Server が正常に起動しません。この場合、サーバーログファイルは作成されません。Sun ONE Application Server のインストールディレクトリの名前に使用できる文字は、英数字、ダッシュ (-)、下線 (_) のみです。インストール作業の一環として既存の Java 2 SDK ディレクトリを指定するときも、同じルールが適用されます。</p> <p>解決法</p> <p>インストール時には、英数字、ダッシュ、下線の文字のみ使用してディレクトリ名を指定してください。</p>
4742828	<p>サイレントインストーラがユーザーのアクセス権をチェックしない</p> <p>対話型インストーラ (GUI または コマンド行) は、ユーザーのアクセス権が適切であるかどうかをチェックします。たとえば、Microsoft Windows へのインストールでは admin ユーザー、Solaris へのパッケージインストールでは root ユーザーのアクセス権が必要です。しかし、サイレントインストールでは、このチェックが行われません。パッケージをインストールするアクセス権 (Solaris)、またはサービスを作成するアクセス権 (Microsoft Windows) がないと、インストールは途中で失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>サイレントインストールは、適切なアクセス権を持つユーザーが実行してください。</p>
4741190	<p>Solaris へのインストール時、JDK_LOCATION 値に以前のバージョン (Java 2 SDK 1.2 以前) のソフトウェアの格納場所を指定してもインストールが中止されない</p> <p>Sun ONE Application Server 7 には、バージョン 1.4.0_02 以上の Java 2 SDK が必要です。しかし、Solaris 上では、既存の Java 2 SDK (バージョン 1.2 以下) を使用するように指定しても警告メッセージが表示されません。この場合、インストール自体は正常に完了しますが、Sun ONE Application Server が正常に機能しません。これは、以前の JAVA_HOME の設定が残っているからです。</p> <p>解決法</p> <p>インストールプログラムの実行前に、JAVA_HOME の設定を解除します。</p> <p>(ksh の場合):unset JAVA_HOME (csh の場合):unsetenv JAVA_HOME</p>

ID	要約
4742171	<p data-bbox="314 225 1338 295">既存の評価用環境に開発運用環境をサイレントモードでインストールした場合、エラーが報告されない</p> <p data-bbox="314 312 1338 434">インストーラをサイレントモードで実行するときに発生する問題です。既存の評価用 Sun ONE Application Server 7 (同じディレクトリ内) 上に、新しい Sun ONE Application Server 7 をサイレントモードでインストールする場合、途中でエラーが報告されることなく処理が進行します。既存の評価用インストールファイルは保存されます。</p> <p data-bbox="314 451 399 486">解決法</p> <p data-bbox="314 503 1338 555">新しい開発運用環境をインストールする前に、既存の Sun ONE Application Server 7 環境をアンインストールしてください。</p>
4742552	<p data-bbox="314 555 1338 659">コマンド行モード (サイレントモード) でインストールを行うとき、1 回のインストールセッションで Sun ONE Application Server と Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java コンポーネントの両方を選択すると、問題が発生する</p> <p data-bbox="314 677 1338 850">開発運用環境用インストールに影響を及ぼす問題です。コマンド行モード (サイレントモード) のインストールでは、1 回のインストールセッションで、Application Server と Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java の両方を選択できます (GUI モードではいずれか一方しか選択できない)。ところが、インストーラは、コンポーネントの依存関係を正しく処理できません。その結果、選択された Sun ONE Application Server コンポーネントではなく Administration Client コンポーネントをインストールしようとします。</p> <p data-bbox="314 868 399 902">解決法</p> <p data-bbox="314 920 1338 1045">GUI モードの場合と同様に、最初にコマンド行モード (サイレントモード) で Sun ONE Application Server コンポーネントをインストールしておきます。その後、新たなセッションで Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java コンポーネントをインストールします。</p>

ID	要約
なし	<p data-bbox="239 244 1228 329">Solaris 上で Sun ONE Application Server インストーラを使って既存の Sun ONE Message Queue 3.0 をバージョン 3.0.1 にアップグレードした場合、Sun ONE Application Server のアンインストール時に Sun ONE Message Queue も削除される</p> <p data-bbox="239 348 1228 461">Solaris の開発運用環境用インストーラに影響を及ぼす問題です。システム上の既存の Sun ONE Message Queue 3.0 を自動的にバージョン 3.0.1 にアップグレードできます。しかし、この Sun ONE Message Queue 3.0.1 は、Sun ONE Application Server のアンインストール時に削除されます。</p> <p data-bbox="239 480 314 503">解決法</p> <p data-bbox="239 527 1228 583">Sun ONE Application Server のアンインストール後も Sun ONE Message Queue を保存しておきたい場合は、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="239 602 1228 777" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 602 1228 657">1. 自動アップグレードを行うかどうかを確認するメッセージが表示された時点でインストーラを終了します。<li data-bbox="239 677 1228 732">2. Sun ONE Message Queue のマニュアルの手順に従って Sun ONE Message Queue 3.0.1 へアップグレードします。<li data-bbox="239 751 925 777">3. Sun ONE Application Server インストールを再実行します。
4746410	<p data-bbox="239 796 1228 852">Solaris 上のデフォルト以外の場所に Sun ONE Application Server をインストールするとき、パッケージベースのインストーラはディスク容量をチェックしない</p> <p data-bbox="239 871 1228 984">パッケージベースのインストーラを使って Solaris 上のデフォルト以外の場所に Sun ONE Application Server をインストールする場合、インストールプログラムは、指定したインストール先ディレクトリのディスク容量をチェックしないで、デフォルトで指定された場所 (/opt) のディスク容量をチェックします。</p> <p data-bbox="239 1003 314 1025">解決法</p> <p data-bbox="239 1050 1228 1138">インストールを開始する前に /opt のディスク容量が 85M バイト以上あるかどうかを確認してください。これは、/opt をインストールディレクトリに指定しない場合も同様です。さらに、インストールディレクトリのディスク容量が 85M バイト以上あることを確認します。</p>
4748404	<p data-bbox="239 1157 1228 1213">Microsoft Windows XP では、サンプルアプリケーションコンポーネントと PointBase 4.2 コンポーネントを増分インストールできない</p> <p data-bbox="239 1232 1228 1378">Windows XP プラットフォームに影響を及ぼす問題です。既存の Sun ONE Application Server コンポーネント上に Sample Applications コンポーネントや PointBase 4.2 コンポーネントを増分インストールしようとしても、既存の Sun ONE Application Server が正常に検出されません。その結果、「Application Server Not Found」というエラーメッセージが表示されて、インストールが途中で終了します。</p> <p data-bbox="239 1397 314 1420">解決法</p> <p data-bbox="239 1444 1228 1560">Sample Applications コンポーネントや PointBase 4.2 コンポーネントは、Sun ONE Application Server コンポーネントと同時にインストールしてください。Sun ONE Application Server がすでにシステム上に存在する場合は、いったんアンインストールして再インストールします。このとき、必要なコンポーネントをすべて選択します。</p>

ID	要約
4748455	<p data-bbox="319 239 996 263">サイレントインストール時にディレクトリエラーが発生する</p> <p data-bbox="319 288 1308 374">全プラットフォームのサイレントインストールに影響を及ぼす問題です。指定のインストールディレクトリに問題がある場合、「Invalid Installation Directory」という汎用エラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは次のように解釈できます。</p> <ul data-bbox="319 395 1143 465" style="list-style-type: none">• 選択されたディレクトリへの書き込みが許可されていない• 選択されたディレクトリの名前が空文字列、または空白文字を含む文字列 <p data-bbox="319 486 396 512">解決法</p>
4749033	<p data-bbox="319 574 1308 635">Microsoft Windows XP では、スタンドアロンの管理クライアントをアンインストールプログラムでアンインストールできない</p> <p data-bbox="319 656 1308 769">Windows XP プラットフォーム上のスタンドアロンの管理クライアントに影響を及ぼす問題です。付属のアンインストールプログラムを使ってスタンドアロンの管理クライアントをアンインストールしようとする、不適切なコンポーネントセットが選択され、システムがハングアップします。</p> <p data-bbox="319 789 396 817">解決法</p>
4749666	<p data-bbox="319 1025 1308 1086">Sample Application コンポーネントを増分インストールした場合、サンプルドキュメントが初期サーバーインスタンスに公開されない</p> <p data-bbox="319 1107 1308 1281">すべてのプラットフォームの開発運用環境用インストーラに影響を及ぼす問題です。Sun ONE Application Server のインストール後、新たなインストールセッションでサンプルアプリケーションをインストールした場合、サンプルドキュメントが初期サーバーインスタンスに公開されません。また、http://hostname:port/samples からアクセスすることもできません。しかし、サンプルドキュメントはファイルシステム上にインストールされており、次の URL からのローカルアクセスは可能です。file:///install_root/samples/index.html</p> <p data-bbox="319 1302 396 1329">解決法</p>

サンプルドキュメントにはローカルからアクセスしてください。

ID	要約
4754256	<p data-bbox="239 244 1213 302">Solaris 上でインストーラを使って Sun ONE Message Queue をアップグレードする場合、設定ファイルが保存されない</p> <p data-bbox="239 324 1220 435">インストーラは、システム上で以前の Sun ONE Message Queue 3.0 パッケージを検出すると、自動的に Sun ONE Application Server 用の Sun ONE Message Queue 3.0.1 にアップグレードします。このとき、バージョン 3.0 の Solaris パッケージとともに次の設定ファイルが削除されます。</p> <pre data-bbox="239 458 711 510">/etc/imq/passwd /etc/imq/accesscontrol.properties</pre> <p data-bbox="239 532 1175 585">これらのファイルに変更を加えていた場合、変更内容は失われます。Sun ONE Message Queue 3.0.1 はデフォルトの設定になります。</p> <p data-bbox="239 607 315 630">解決法</p> <p data-bbox="239 652 1218 734">変更が加えられているファイルのバックアップコピーを作成しておき、アップグレードの完了後に復元します。詳細については、『Sun ONE Message Queue 3.0 インストールガイド』を参照してください。</p>

ID	要約
4754824	<p data-bbox="321 225 1312 269">Solaris 上で、CD からインストールを実行しているときエラーメッセージが表示される</p> <p data-bbox="321 286 1312 503">CD-ROM ドライブにボリュームを挿入すると、Solaris ボリューム管理によりシンボリック名が割り当てられます。たとえば、デフォルトの正規表現が一致している CD-ROM が 2 枚ある場合、それぞれに <code>cdrom0</code> または <code>cdrom</code> という名前が割り当てられます。正規表現が一致している CD-ROM をさらに追加すると、<code>cdrom2</code> で始まる名前が割り当てられます。このことは、<code>vold.conf</code> のマニュアルページで説明しています。CD から Sun ONE Application Server をインストールするたびに、ラベル名と数値から成るマウントポイント名が割り当てられます。最初のマウントでは問題が発生しませんが、2 回目以降では、インストーラが起動すると次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="321 520 1312 598">IOException:java.io.FileNotFoundException: /cdrom/appserver7 (No such file or directory) while loading default flavormap.properties file URL:file:/cdrom/appserver7#4/AppServer7/pkg/jre/lib/flavormap.properties</pre> <p data-bbox="321 616 399 642">解決法</p> <p data-bbox="321 659 1113 685">インストーラの機能には影響を及ぼしませんが、次の解決方法があります。</p> <ol data-bbox="321 703 1312 902" style="list-style-type: none"> 1. コマンドプロンプトに <code>su</code> と入力し、パスワードを入力してスーパーユーザーになります。または、最初から <code>root</code> (スーパーユーザー) としてログインします。スーパーユーザーのコマンドプロンプト (<code>#</code>) が表示されます。 2. <code>cdrom</code> ディレクトリが存在しない場合は、次のコマンドで作成します。 <pre data-bbox="357 841 564 868"># mkdir /cdrom</pre> 3. CD-ROM ドライブをマウントします。 <p data-bbox="321 920 1135 972">注: <code>vold</code> プロセスは、CD-ROM デバイスを管理し、マウントを実行します。<code>/cdrom/cdrom0</code> に、CD-ROM が自動的にマウントされます。</p> <p data-bbox="321 989 1213 1041">ファイルマネージャを実行している場合は、ファイルマネージャウィンドウが開き、CD-ROM の内容が表示されます。</p> <ol data-bbox="321 1058 1312 1440" style="list-style-type: none"> 4. CD-ROM がマウントされていないため <code>/cdrom/cdrom0</code> ディレクトリが空になっている場合や、CD-ROM のコンテンツを表示するファイルマネージャウィンドウが開かない場合は、次のコマンドで、<code>vold</code> デーモンが実行されているかどうかを確認します。 <pre data-bbox="357 1145 849 1171"># ps -e grep vold grep -v grep</pre> 5. <code>vold</code> が実行されている場合は、<code>vold</code> のプロセス ID が表示されます。何も表示されない場合は、次のコマンドでデーモンを強制終了します。 <pre data-bbox="357 1258 863 1284"># ps -ef grep vold grep -v grep</pre> 6. 次のコマンドで <code>vold</code> プロセスを停止します。 <pre data-bbox="357 1336 763 1362"># kill -15 process_ID_number</pre> 7. CD-ROM を手動でマウントします。 <pre data-bbox="357 1414 1120 1440"># mount -F hsfs -r ro /dev/dsk/cxytd0sz /cdrom/cdrom0</pre> <p data-bbox="321 1458 1312 1510"><code>x</code> は CD-ROM ドライブのドライブコントローラの番号です。<code>y</code> は CD-ROM ドライブの SCSI ID です。<code>z</code> は CD-ROM が置かれているパーティション (スライス) です。</p> <p data-bbox="321 1527 1249 1578">これで、CD-ROM ドライブがマウントされました。インストール時の手順については、Solaris のマニュアルで CD のインストールと設定に関する説明を参照してください。</p>

ID	要約
4755165	<p data-bbox="239 244 1213 300">Microsoft Windows で、管理者の認証情報を setup.exe の実行時に提供した場合、インストーラ機能に問題が発生する</p> <p data-bbox="239 322 1213 465">Microsoft Windows プラットフォームのインストールに影響を及ぼす問題です。管理者の特権なしでログインしたユーザーが setup.exe を実行しようとする時、管理者の認証情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。正しい認証情報を入力すると、特権のチェックが正常に完了し、インストールが開始されます。ただし、次のような問題が発生することがあります。</p> <ul data-bbox="239 487 1213 586" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 487 1213 543">• インストールディレクトリを選択する画面で「ブラウズ」ボタンを使用すると、インストーラがハングアップします。<li data-bbox="239 560 1213 586">• Sun ONE Application Server のプログラムグループエントリが作成されません。
4757687	<p data-bbox="239 696 1213 751">Solaris 上で Administration Client コンポーネントがインストールされているシステムに増分インストールすると、Sun ONE Application Server を使用できなくなる</p> <p data-bbox="239 774 1213 1034">Solaris プラットフォーム上の Solaris のパッケージベースのインストールに影響を及ぼす問題です。スタンドアロンの Administration Client コンポーネントがインストールされているシステムに、Administration Client コンポーネントのインストールディレクトリ以外のディレクトリを指定して Sun ONE Application Server をインストールした場合、インストールに成功したというメッセージが表示されていても、この Sun ONE Application Server を使用することはできません。これは、システム上に Administration Client の Solaris パッケージがインストールされているからです。これらのパッケージを Sun ONE Application Server と同時にインストールすることはできません。その結果、製品機能を使用するために必要なファイルが見つからないという問題が発生します。</p> <p data-bbox="239 1057 315 1079">解決法</p> <p data-bbox="239 1102 1213 1157">Solaris システム上のスタンドアロンの Administration Client をアンインストールしてから、Sun ONE Application Server をインストールします。</p> <p data-bbox="239 1180 1213 1229">Sun ONE Application Server の増分インストールも可能ですが、Administration Client と同じインストールディレクトリを使用する必要があります。</p>

ID	要約
4762118	<p data-bbox="319 239 1286 300">Solaris 上で、選択されたカスタム設定ディレクトリが選択されたインストールディレクトリのサブディレクトリ etc である場合、インストールが失敗する</p> <p data-bbox="319 317 1286 404">Solaris プラットフォーム上の Solaris のパッケージベースのインストールに影響を及ぼす問題です。次の組み合わせでカスタムディレクトリを選択すると、ディレクトリのグループの所有権情報に不整合が生じ、インストールが失敗します。</p> <ul data-bbox="319 421 762 499" style="list-style-type: none">• インストールディレクトリ : <code>install_dir</code>• 設定ディレクトリ : <code>install_dir/etc</code> <p data-bbox="319 517 1286 569"><code>/var/sadm/install/logs</code> ディレクトリ内の <code>pkgadd</code> ログファイルに次のエラーメッセージが書き込まれます。</p> <pre data-bbox="319 586 976 647">pkgadd: ERROR: duplicate pathname /install_dir/etc pkgadd: ERROR: unable to process pkgmap</pre> <p data-bbox="319 664 396 689">解決法</p> <p data-bbox="319 706 1062 737"><code>install_dir/etc</code> 以外のカスタム設定ディレクトリを選択してください。</p>
4724612	<p data-bbox="319 755 1286 815">Solaris 上で、インストールを行なったユーザー以外が PointBase シェルスクリプトを実行すると失敗する</p> <p data-bbox="319 833 1286 894">評価版 Solaris インストールだけに影響を及ぼす問題です。PointBase シェルスクリプトの実行権はインストールを行なったユーザーにだけ付与されます。</p> <p data-bbox="319 911 396 935">解決法</p> <p data-bbox="319 953 1286 1015">製品のインストールを行なったユーザー以外がこのスクリプトを実行する必要がある場合は、実行権を 0755 に変更してください。</p>
4762694	<p data-bbox="319 1032 1286 1093">Solaris 上で、Sun ONE Message Queue のアップグレード時に Sun ONE Message Queue パッケージ SUNWiqsup が削除されない</p> <p data-bbox="319 1111 1286 1223">Solaris だけで発生する問題です。Sun ONE Application Server 7 のインストール時には、Sun ONE Message Queue 3.0.1 がインストールされます。Solaris 上で Sun ONE Message Queue 3.0 が検出された場合、このバージョンはユーザーの承認を経てアンインストールされます。その後、バージョン 3.0.1 がインストールされます。</p> <p data-bbox="319 1241 1286 1354">アップグレード時、Solaris インストーラが Sun ONE Message Queue 3.0 の Solaris パッケージの一部 (SUNWiqsup) を削除しないというクリーンアップ関連の問題があります。このパッケージは、Sun ONE Message Queue にも Sun ONE Application Server 7 にも悪影響を及ぼしません。したがって、残したままでも問題はありません。</p> <p data-bbox="319 1371 396 1395">解決法</p> <p data-bbox="319 1413 1286 1473"><code>root</code> (スーパーユーザー) になり、次のコマンドを使って SUNWiqsup パッケージを手動で削除します。</p> <pre data-bbox="319 1491 562 1515"># pkgrm SUNWiqsup</pre>

サーバーの起動とシャットダウン

この節では、起動とシャットダウンに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ログサービスの create-console 属性の動作

Microsoft Windows では、server.xml 内の log-service 要素の create-console 属性の値を true に設定すると (デフォルト設定)、デスクトップ上にウィンドウが開き、サーバーイベントログの内容が表示されます。意図的にこのウィンドウを閉じて、アプリケーションサーバーインスタンスプロセスが終了したままになることはありません。コンソールウィンドウを閉じると、appservd.exe プロセスが終了します。しかし、このサーバーインスタンスプロセスは、監視プロセス (appservd-wdog.exe) によってただちに再起動されます。

開発者は、アプリケーションサーバーインスタンスを迅速に再起動する手段として、インスタンスのイベントログウィンドウを閉じることができます。

ただし、アプリケーションサーバーインスタンスを完全に (監視プロセスとともに) 停止する場合は、次の手順を実行してください。

- 管理インタフェースを使用する場合 - 「スタート」-> 「プログラム」-> 「Sun ONE Application Server 7」-> 「Stop Application Server」を選択します。
- コマンド行インタフェースを使用する場合 - `asadmin stop-instance --local=true instance name` を実行します。

これは、ローカル形式の stop-instance コマンドです。リモート形式も使用できます。詳細については、`asadmin stop-instance` のヘルプを参照してください。

- 管理コンソールを使用する場合 - サーバーインスタンスを選択し、「停止」をクリックします。

管理コンソールでは、アプリケーションサーバーインスタンスの「ログ」タブの「コンソールを作成」の設定を変更することにより、コンソールイベントログウィンドウの有効または無効を切り替えることができます。

ID	要約
4725893	<p data-bbox="235 1220 1253 1255">Solaris 上で、ライセンスの有効期限が表示されない</p> <p data-bbox="235 1269 1253 1359">Solaris の評価用ライセンスに影響を及ぼします。ライセンスの有効期限まで 2 週間以内になっても、コマンド行インタフェースやブラウザベースのインタフェースに警告メッセージが表示されません。この警告メッセージは、サーバーログファイルに書き込まれます。</p> <p data-bbox="235 1373 321 1407">解決法</p> <p data-bbox="235 1421 706 1456">サーバーログファイルを確認してください。</p>

ID	要約
4738648	<p data-bbox="318 239 1108 269">JMS サービス、または Sun ONE Application Server の起動に失敗する</p> <p data-bbox="318 286 1308 373">JMS プロバイダ (Sun ONE Message Queue ブローカ) が未配信の持続メッセージを大量に保持している場合、次の問題の発生により、Sun ONE Application Server の初期化時に障害が発生します。</p> <ol data-bbox="318 390 1286 447" style="list-style-type: none">1. 未配信のメッセージを全部読み込もうとしてメモリ不足になり、MQ ブローカの処理が中断されます。 <p data-bbox="318 465 396 494">解決法</p> <p data-bbox="318 512 1308 569">MQ ブローカプロセスの Java ヒープサイズを大きくしてください。このためには、JMS サービスの起動引数属性の値を <code>-vmargs -Xmx256m</code> に設定します。</p> <p data-bbox="318 586 1308 644">この属性の設定手順については、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の「JMS サービスの使用」の章を参照してください。</p> <ol data-bbox="318 661 1232 718" style="list-style-type: none">2. MQ ブローカが特定の時間内に初期化シーケンスを完了できない場合、Sun ONE Application Server がタイムアウトになり、中断します。 <p data-bbox="318 736 396 765">解決法</p> <p data-bbox="318 782 1308 869">JMS サービスの <code>Start Timeout</code> 属性の値を大きくします。この属性の設定手順については、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の「JMS サービスの使用」の章を参照してください。</p>

ID	要約
----	----

4762420 ファイアウォールの規則により、Sun ONE Application Server の起動に失敗する

パーソナルファイアウォールをインストールしている場合に発生する問題です。Sun ONE Application Server がインストールされているマシンに厳密なファイアウォール規則を適用すると、管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスの起動時に障害が発生することがあります。管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスは、Sun ONE Application Server 環境でローカル接続を確立しようとしています。これらの接続は localhost ではなくシステムのホスト名を使ってポートにアクセスしようとするので、ローカルのファイアウォールの規則に従ってブロックされることがあります。

セキュリティ上何の問題もない処理に対して、ローカルのファイアウォールが誤った警告を生成することもあります。たとえば、Sun ONE Application Server がポート 3700 で TCP 接続を試行しているのに、「Portal of Doom Trojan」攻撃または同様の攻撃を受けたというメッセージが表示される場合があります。このような問題は、Sun ONE Application Server がローカル通信に使用するポート番号と、既知の一般的な攻撃に使用されるポート番号が重複している場合に発生します。ポート番号が重複しているかどうかの判断基準は次のとおりです。

- Microsoft Windows プログラムグループの「Start Application Server」を使って Sun ONE Application Server を起動しようとする、次のメッセージとともに処理が失敗します。

```
インスタンスを起動できませんでした :domain1:admin-server
サーバーの再起動に失敗しました :abnormal subprocess termination
...
```

- 管理ログファイルとサーバーインスタンスログファイルに、接続例外と次のメッセージが書き込まれています。CORE3186:Failed to set configuration

解決法

Sun ONE Application Server からローカルシステム上のポートに接続できるように、ファイアウォールポリシーを変更します。

攻撃について誤った警告が生成されないようにするには、攻撃関連の規則を変更するか、Sun ONE Application Server が使用するポート番号を変更します。

管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスが使用するポート番号は、Sun ONE Application Server のインストール先の server.xml ファイルで確認できます。

```
domain_config_dir/domain1/admin-server/config/server.xml
domain_config_dir/domain1/server1/config/server.xml
```

domain_config_dir はサーバーの初期設定を行なった場所です。次に例を示します。

Microsoft Windows: *install_dir*/domains/...

Solaris 9 以上の統合インストールの場合: /var/appserver/domains/...

Solaris 8、9 とそれ以上のアンバンドルのインストールの場合
:/var/opt/SUNWappserver7/domains/...

<iiop-listener> と <jms-service> のポート設定を確認します。これらのポート番号を未使用のポート番号に変更するか、ローカルマシン上のクライアントから同じマシン上のこれらのポートへ接続できるようにファイアウォールポリシーを書き換えます。

ID	要約
4780076	<p data-bbox="321 243 1328 303">Solaris 上で、Sun ONE Application Server がすべてのインスタンスを root (スーパーユーザー) として起動するため、root 以外のユーザーに root アクセス権が与えられる</p> <p data-bbox="321 321 1328 373">Sun ONE Application Server を Solaris (バンドル版) の一部としてインストールすると、アプリケーションサーバーの起動に関連する問題が発生します。</p> <ul data-bbox="321 390 1328 651" style="list-style-type: none">• すべてのアプリケーションサーバーおよび管理サーバーは、Solaris の起動時に、自動的に起動します。環境によっては、Solaris の起動時に、インスタンスが起動しない場合もあります。定義されたすべてのインスタンスを起動すると、システム上の利用可能なメモリに悪影響を与えることがあります。• アプリケーションサーバーインスタンスおよび管理サーバーインスタンスが自動的に起動する際、各インスタンスの起動スクリプトは root (スーパーユーザー) として実行されます。インスタンスレベルの起動スクリプトを変更すると、root 以外が所有するインスタンス起動スクリプトを実行して、root 以外のユーザーが root ユーザーにアクセスできるようになります。 <p data-bbox="321 668 521 694">バックグラウンド</p> <p data-bbox="321 711 1328 876">Sun ONE Application Server を Solaris の一部としてインストールすると、<code>/etc/init.d/appserv</code> スクリプトと、<code>/etc/rc*.d/</code> ディレクトリの <code>S84appserv</code> および <code>K05appserv</code> スクリプトへのシンボリックリンクがインストールされます。インストールされたスクリプトは、すべてのアプリケーションサーバーと管理サーバーのインスタンスをアプリケーションサーバーの一部として定義します。そのため、Solaris システムの起動およびシャットダウン時に、インスタンスは自動的に起動、停止されます。</p> <p data-bbox="321 894 1149 920"><code>/etc/init.d/appserv</code> スクリプトには、次のコードセクションがあります。</p> <pre data-bbox="321 946 821 1197">... case "\$1" in 'start') /usr/sbin/asadmin start-appserv ;; 'stop') /usr/sbin/asadmin stop-appserv ;; ... </pre> <p data-bbox="321 1223 1328 1449"><code>asadmin start-appserv</code> コマンドを実行すると、管理サーバーインスタンスおよび管理ドメインに定義されているすべてのアプリケーションサーバーインスタンスが Solaris 起動時に起動します。システムの起動およびシャットダウンスクリプトは root で実行されるので、各アプリケーションサーバーと管理サーバーのインスタンスも root で実行されます。インスタンスレベルの起動スクリプトは、<code>startserv</code> という名前で <code>instance-dir/bin/startserv</code> に格納されます。インスタンスは、root 以外のユーザーが所有していることがあるため、root 以外のユーザーが <code>startserv</code> スクリプトを変更して、root ユーザーでコマンドを実行する可能性があります。</p> <p data-bbox="321 1466 1328 1571">インスタンスが特権を持つネットワークポートを使用している場合は、そのインスタンスの <code>startserv</code> スクリプトは root として実行する必要があります。通常、インスタンスを「実行するユーザー」と設定して、一度インスタンスを root ユーザーで起動した後は、特定のユーザーで実行されるようにします。</p>

ID	要約
----	----

(続き)	解決法
--------	------------

次に解決方法を示します。環境に対応した方法を実行してください。

- すべてのアプリケーションサーバーと管理サーバーのインスタンスが **root** で起動されない環境では、`etc/init.d/appserv` スクリプトの `asadmin start-appserv` および `asadmin stop-appserv` コマンドをコメントアウトして実行されないようにします。
- 特定の管理ドメイン (管理サーバーインスタンス、および各ドメインのすべてのアプリケーションサーバーインスタンスを含む)、あるいは1つ以上の管理ドメイン内で特定のインスタンスを起動する環境では、`/etc/init.d/appserv` スクリプトを変更してドメインやインスタンスを起動するようにするか、あるいは環境に対応した `/etc/rc*.d/` スクリプトを新たに定義します。
- 特定のドメインを起動します。管理ドメインあるいは特定のインスタンスが **root** 以外のユーザーとして起動する必要がある場合は、`-c` オプション付の `su` コマンドを使って目的のドメインやインスタンスを起動します。

例

特定の管理ドメインの起動 - 次のように `/etc/rc*.d/` スクリプトを変更すると、管理サーバーインスタンス、および特定の管理ドメインに含まれるすべてのアプリケーションサーバーインスタンスが、**root** で実行されます。

```
...
case "$1" in
'start')
    /usr/sbin/asadmin start-domain --domain production-domain
    ;;
'stop')
    /usr/sbin/asadmin stop-domain --domain production-domain
    ;;
...

```

ID	要約
(続き)	<ul style="list-style-type: none">特定のアプリケーションサーバーインスタンスを root 以外のユーザーで実行するには、<code>/etc/rc*.d/</code> スクリプトを変更して、<code>-c</code> オプション付の <code>su</code> コマンドを使用するようにします。 <pre>... case "\$1" in 'start') su - usera -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain instance-a" su - userb -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain instance-b" ;; 'stop') su - usera -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain instance-a" su - userb -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain instance-b" ;; ... </pre> <p><code>asadmin</code> のコマンド行インタフェースで利用できる、起動とシャットダウンに関するコマンドの詳細は、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』を参照してください。</p>

データベースドライバ

この節では、データベースドライバに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4700531	<p data-bbox="239 383 906 407">Solaris 上で、ORACLE JDBC ドライバのエラーが発生する</p> <p data-bbox="239 430 1225 545">この JDBC ドライバは、JDK 1.4 と連携して機能する Oracle 用の新しいドライバです。Oracle 9.1 データベースと <code>ojdbc14.jar</code> が併用されているときに、エラーが発生します。Oracle 9.0.1.3 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、問題を修正できます。</p> <p data-bbox="239 565 315 590">解決法</p> <p data-bbox="239 612 1225 666">Oracle の Web サイトからバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。次の手順を実行してください。</p> <ol data-bbox="239 687 1225 1015" style="list-style-type: none">1. Oracle の Web サイトに移動します。2. 「パッチ」ボタンをクリックします。3. パッチ ID フィールドに「2199718」と入力します。4. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。次に、<code>Metalink.oracle.com</code> に移動します。5. パッチをクリックします。6. パッチ ID 2199718 を入力します。7. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。
4707531	<p data-bbox="239 1036 1225 1090">Solaris 上で、Oracle 9.2 クライアントから Oracle 9.1 データベースにアクセスするとデータが壊れる</p> <p data-bbox="239 1112 1225 1166">timestamp 列に続いて number 列が存在する場合、Oracle 9.2 クライアントから Oracle 9.1 データベースにアクセスするとデータが壊れることがあります。</p> <p data-bbox="239 1187 1225 1302">Oracle 9.1 データベースで <code>ojdbc14.jar</code> ファイルを使用していると、この問題が発生します。Oracle 9.1 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、問題を修正できます。この JDBC ドライバは、JDK 1.4 と連携して機能する Oracle 用のドライバです。</p> <p data-bbox="239 1322 315 1347">解決法</p> <p data-bbox="239 1369 1225 1394">Oracle の Web サイトからバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。</p>

Web コンテナ

この節では、Web コンテナの既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4740477	<p data-bbox="318 387 1253 447">sun-web-app_2_3-0.dtd ファイル内に、タイムアウト要素の構文が正しくない Web キャッシュの例がある</p> <p data-bbox="318 465 1272 526">この例では、<code>timeout</code> が XML キャッシュオブジェクトを使用するように設定されています。</p> <pre data-bbox="318 526 648 548"><timeout> 60 </timeout></pre> <p data-bbox="318 569 1286 630">name パラメータは必須フィールドなので、本来であれば次のように設定しなければなりません。</p> <pre data-bbox="318 630 776 652"><timeout name="foo">60</timeout></pre> <p data-bbox="318 673 396 696">解決法</p> <p data-bbox="318 716 733 739">ベリファイアを使用しないでください。</p>

EJB コンテナ

この節では、Enterprise JavaBeans™ (EJB™) に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4735835	<p data-bbox="228 387 956 413">ejbFind メソッドから戻された null の PK を正しく処理できない</p> <p data-bbox="228 430 1249 517">次のコンテナ管理持続 (CMP) の例では、ejbFind から 1 個以上の null が戻されます。なお、ここでは、ejbFind が EmployeeEJB Bean によって呼び出され、Bean と同じインスタンス型を戻すものとします。</p> <ol data-bbox="228 534 999 651" style="list-style-type: none"><li data-bbox="228 534 999 581">1. <code>find insurance.employee where insurance.id == 10</code><li data-bbox="228 624 999 651">2. <code>find all insurance.employee where insurance.id > 10</code> <p data-bbox="228 581 999 607">insurance に employee が関連付けられていない場合、null を戻します。</p> <p data-bbox="228 668 999 694">employee を持たない insurance に対して、null を含む集まりを戻します。</p> <p data-bbox="228 711 1249 772">結果セット内で最初に null の PK を検出したとき、CMP クライアントは、「param0 cannot be null」という <code>JDOFatalInternalException</code> を受け取ります。</p> <p data-bbox="228 789 1249 876">単一オブジェクトの検索メソッドの場合、BMP クライアントは、「Null primary key returned from ejbFind method」という <code>EJBException</code> を受け取ります。マルチオブジェクトの検索メソッドの場合、<code>NullPointerException</code> を受け取ります。</p> <p data-bbox="228 894 314 920">解決法</p> <p data-bbox="228 937 456 963">解決法はありません。</p>
4744434	<p data-bbox="228 989 1249 1050">ステートフルセッション Bean の使用時に Sun ONE Application Server が Null Pointer 例外をスローする</p> <p data-bbox="228 1067 1249 1241">Sun ONE Application Server の EJB コンテナは、ステートフルセッション Bean をキャッシュに格納することにより、パフォーマンスを改善します。キャッシュのオーバーフローが発生すると (キャッシュ内の Bean 数が <code>max-cache-size</code> を超過すると)、コンテナにより、Bean が非活性化されディスクに退避されます。サーバーは <code>NullPointerException</code> をスローします。この問題は、<code>max-cache-size</code> と <code>cache-resize-quantity</code> の差が 8 より小さいときに発生します。</p> <p data-bbox="228 1258 314 1284">解決法</p> <p data-bbox="228 1302 1249 1388"><code>max-cache-size</code> と <code>cache-resize-quantity</code> の差が 8 より大きくなるように設定します。または、<code>max-cache-size</code> の値を 0 に設定して、バインド解除されたキャッシュを使用します。</p>

コンテナ管理持続

この節では、コンテナ管理持続 (CMP) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4732684	<p data-bbox="318 387 851 409">Oracle JDBC ドライバの最適化が開始されない</p> <p data-bbox="318 435 1296 548">コンテナ管理持続 (CMP) Bean を使って Oracle データベースを最適化するには、classes12.zip ファイルを server.xml ファイルの classpath-suffix 属性に指定する必要があります。サードパーティライブラリのデフォルトのディレクトリ /lib には格納しません。</p> <p data-bbox="318 569 396 591">解決法</p> <p data-bbox="318 618 1296 670">server.xml ファイルの classpath-suffix 属性に classes12.zip ファイルを追加します。</p>
4734963	<p data-bbox="318 690 968 713">配備時にセルフリファレンス CMR による問題が発生する</p> <p data-bbox="318 739 1296 826">EJB 配備記述子のパーサー ejb-jar.xml は、自己参照のコンテナ管理関係 (CMR)、すなわち ejb-relationship-role を正しく処理しません。1 対多の 1 側のフィールドはスキップされます。</p> <p data-bbox="318 847 396 869">解決法</p> <p data-bbox="318 895 1296 951">1 側 (<multiplicity> の多側とともに) が ejb-relation の先頭に来るように ejb-relationship-role セクションを変更します。</p>

ID	要約
4742757	PK/FK が重複している場合、CMR でカスケード削除を実行できない <p data-bbox="239 291 1200 374">コンテナ管理関係 (CMR) フィールドが、主キーまたは外部キーの重複に関する制約があるデータベーススキーマにマップされている場合、<code>cascade-delete</code> 機能を使って CMR フィールドの関連要素を削除することはできません。</p> <p data-bbox="239 395 1208 508">こうしたスキーマの例として、Order-LineItem 関係を挙げることができます。こうしたスキーマを持つアプリケーションで Order Bean を削除しようとしていて、対応する関係が <code>cascade-delete</code> に指定されている場合、呼び出し元に、主キーの更新を許可しないという次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="239 529 1219 673">java.rmi.RemoteException:Exception thrown from bean; nested exception is: javax.ejb.EJBException:nested exception is: com.sun.jdo.api.persistence.support.JDOUserException: 管理された関係から インスタンスを削除しようとするのは不正な試みです。</pre> <p data-bbox="239 694 1215 807">関係は他方サイドの主キーカラムによって定義されています。コレクション上の削除オペレーションでは、他方サイドのカラムの更新が必要です。このため、主キーによって定義された管理関係コレクションからインスタンスを削除することは、そのインスタンスを明示的に削除、またはカスケード削除することによってのみ行えます。</p> <pre data-bbox="239 828 1179 911">NestedException: com.sun.jdo.api.persistence.support.JDOUnsupportedOptionException: 主キーフィールドの更新はできません。</pre> <p data-bbox="239 932 315 953">解決法</p> <p data-bbox="239 979 701 999">次のいずれかの方法で問題を回避できます。</p> <ol data-bbox="239 1025 1219 1152" style="list-style-type: none">1. PK/FK が重複しているテーブルにマップされている関係に対しては、<code>cascade-delete</code> を使用しない: 関係が重複した Bean に対して繰り返し処理を適用し、1 つずつ削除したあとで所有側の Bean を削除してください。2. PK/FK が重複しないようにテーブル定義を変更する

ID	要約
4747222	<p data-bbox="319 239 1300 300">Oracle のキャプチャスキーマユーティリティは -schemaname が指定されていないと動作しない</p> <p data-bbox="319 322 1286 378">capture-schema ユーティリティでは、-schemaname を指定しないで Oracle データベースからデータベーススキーマ情報を取り込もうとすると、次の問題が発生します。</p> <p data-bbox="319 395 1300 425">1. すべてのテーブルを取り込もうとした場合 (特定のテーブルを明示的に選択しない場合):</p> <pre data-bbox="319 440 1205 526">bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -out test.dbschema</pre> <p data-bbox="319 545 733 574">次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="319 576 868 630">java.sql.SQLException ORA-00942:table or view does not exist.</pre> <p data-bbox="319 649 639 678">出力ファイルは壊れています。</p> <p data-bbox="319 696 1058 725">2. -table オプションを使って 1 個以上のテーブルを指定した場合:</p> <pre data-bbox="319 741 1205 826">bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -table DEPT -out test.dbschema</pre> <p data-bbox="319 845 1296 902">出力ファイルには指定のテーブルが書き込まれますが、カラム情報は書き込まれません。したがって、このファイルで CMP マッピングを行うことはできません。</p> <p data-bbox="319 921 396 951">解決法</p> <p data-bbox="319 966 1300 1024">Oracle データベースからスキーマを取り込むときは、必ず -schemaname オプションを使用し、アルファベットの太文字でユーザー名を指定してください。</p> <pre data-bbox="319 1043 1300 1128">bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -schemaname SCOTT -out test.dbschema)</pre>
4751235	<p data-bbox="319 1147 1300 1208">キャプチャスキーマユーティリティ : Oracle または PointBase で -table オプションの値を太文字で指定しないと壊れたファイルが出力される</p> <p data-bbox="319 1227 1296 1399">Oracle や PointBase は、二重引用符 ("") で囲まれていない識別子の文字をすべて太文字に変換します。capture-schema ユーティリティで Oracle または PointBase からデータベーススキーマを取り込むとき、-table オプションの引数として小文字だけ (-table student など)、または太文字と小文字 (-table Student など) でテーブル名を指定すると、正しく処理されません。対応するテーブルのカラム情報を含まないデータベーススキーマファイルが生成されます。</p> <p data-bbox="319 1418 396 1447">解決法</p> <p data-bbox="319 1463 1110 1492">テーブル名はすべて太文字で指定してください (-table STUDENT など)。</p>

ID	要約
4852757	<p>CMP Bean の配備に失敗する</p> <p>次のエラーは、<code>sun-ejb-jar.xml</code> ファイル内のコンテナ管理持続 (CMP) Bean に <code><query-params></code> エントリが存在しないためにスローされます。</p> <p><code>ejbc</code> 実行中のエラー。EJB コンパイラからの重大なエラー ----- CMP Bean 処理中のエラーです。</p> <p>解決法</p> <p>CMP Bean には必要ない場合でも、<code>sun-ejb-jar.xml</code> ファイルのファインダに空のパラメータで <code>query-params</code> タグを追加します。</p>

Message Service とメッセージ駆動型 Beans

この節では、Java Message Service (JMS)、Sun ONE Message Queue およびメッセージ駆動型 Beans の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4683029	<p>MQ Solaris/Microsoft Windows スクリプト内の <code>-javahome</code> フラグは、値に空白文字が含まれていると正しく機能しない</p> <p>Sun ONE Message Queue のコマンド行ユーティリティには、その他の Java ランタイムを指定する <code>-javahome</code> オプションが用意されています。このオプションを使用する際、Java ランタイムのパスに空白文字を含めることはできません。空白文字を含むパスの例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows: <code>C:\¥jdk 1.4</code>• Solaris の場合: <code>:/work/java 1.4</code> <p>この問題は、Sun ONE Application Server インスタンスの起動時に発生します。Sun ONE Application Server インスタンスを起動すると、デフォルトで、対応する Sun ONE Message Queue ブローカインスタンスが起動します。このブローカは、Sun ONE Application Server と同じ Java ランタイムを使用するため、<code>-javahome</code> コマンド行オプションを使って起動します。Sun ONE Application Server 用に設定された Java ランタイム (ブローカでも使用可能) のパスに空白文字が含まれていると、ブローカの起動に失敗します。このため、Sun ONE Application Server インスタンスの起動も失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server の Java ランタイムのパスに空白文字が含まれていないことを確認してください。</p>

Java Transaction Service (JTS)

この節では、Java トランザクションサービス (JTS) の既知の問題とその解決方法を示します。

復旧

JDBC ドライバの復旧に関する既知の問題があります。Sun ONE Application Server は、これらの問題に対していくつかの回避策を用意しています。デフォルトでは、ユーザーが明示的に指定しないかぎり、これらの回避策は使用されません。

- Oracle JDBC ドライバの問題 - Oracle XA Resource 実装の回復メソッドは、入力フラグとは関係なく、繰り返し同じ未確定 Xid のセットを戻します。XA 仕様によると、トランザクションマネージャは、最初に TMSTARTSCAN を使って XAResource.recover を呼び出したあと、TMNOFLAGS を使って、Xid が戻されなくなるまで繰り返し XAResource.recover を呼び出します。

Sun ONE Application Server は、Oracle XA Resource の確認メソッドの問題に対する回避策も用意しています。この回避策を適用するには、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素にプロパティ oracle-xa-recovery-workaround を追加します。

プロパティ値は必ず true に設定します。

- Sybase JConnect 5.2 ドライバの問題 - JConnect 5.2 ドライバには、JConnect 5.5 では解決されている既知の問題があります。JConnect 5.2 ドライバを使用する場合は、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素にプロパティ sybase-xa-recovery-workaround を追加して、復旧を有効にしてください。

プロパティ値は必ず true に設定します。

トランザクション

server.xml ファイルでは、XA 接続と非 XA 接続の区別に res-type を使用します。これにより、データを駆動するデータソースの設定が識別されます。たとえば、Datadirect ドライバでは、同じデータソースを XA または非 XA として使用できます。

デフォルトでは、データソースは非 XA です。XA に指定してトランザクションの connpool 要素を付加するには、res-type が必要です。トランザクション内で connpool を正常に機能させるには、server.xml ファイルに次の res-type 属性を追加します。

```
res-type="javax.sql.XADataSource"
```

ID	要約
4689337	<p>非 txn コンテキストの XADatasource 接続は使用できない</p> <p>データベースドライバの既知の問題です。非 txn コンテキストの XADatasource 接続では、Autocommit がデフォルトで false に設定されます。</p> <p>解決法</p> <p>トランザクションではなく非 XA データソースクラスを使って、commit または rollback プログラムを明示的に呼び出します。</p>
4700241	<p>トランザクションのタイムアウト値をゼロ以外に設定するとローカルトランザクションの処理時間が長くなる</p> <p>現在のローカルトランザクションマネージャは、一定のタイムアウト値を持つトランザクションをサポートしません。transaction-service 要素の timeout-in-seconds 属性に 0 より大きい値を指定すると、すべてのローカルトランザクションがグローバルトランザクションとして処理されるため、処理時間が長くなります。さらに、データソースドライバがグローバルトランザクションをサポートしていないと、ローカルトランザクションは失敗します。タイムアウト値が 0 のとき、トランザクションマネージャは、データソースからの応答を無期限に待機します。</p> <p>解決法</p> <p>timeout-in-seconds の値をデフォルトの 0 に戻します。</p>

アプリケーションの配備

この節では、配備に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4403166	<p>Microsoft Windows では、長いパス名はサポートされていません。</p> <p>この問題については、12 ページの「インストールとアンインストール」を参照してください。</p>

ID	要約
4703680	<p data-bbox="319 239 1300 263">EJB モジュールを (MDB とともに) 再配備すると、リソース競合例外がスローされる</p> <p data-bbox="319 288 1300 434">Microsoft Windows 2000 上の Sun ONE Studio 4 でメッセージ駆動型 Beans (MDB) を使用するときに発生する問題です。EJB モジュールに特定のキューを使用する MDB が含まれている場合、同じ EJB モジュールを (同じキューを使用する) 同じ MDB とともに再配備すると、リソースの競合が発生します。その結果、(変更済みの)モジュールを使用できなくなります。</p> <p data-bbox="319 458 396 482">解決法</p> <p data-bbox="319 506 544 531">解決法はありません。</p>
4725147	<p data-bbox="319 546 743 571">配備する仮想サーバーを選択できない</p> <p data-bbox="319 595 1300 706">この場合は、仮想サーバー 2 台をまったく同じように設定し、一方をホスト、もう一方をリスナーにします。アプリケーションが 2 台目の仮想サーバーだけに配備されている場合、この仮想サーバーにはアクセスできません。これは、host:port の組み合わせで 1 台目の仮想サーバーが指定されているからです。</p> <p data-bbox="319 730 396 755">解決法</p> <p data-bbox="319 779 1300 829">仮想サーバーのホスト名と元のホスト名が同じにならないようにしてください。特に、同じ HTTP リスナーを使用する場合には注意が必要です。</p>
4734969	<p data-bbox="319 845 1122 869">Bean パッケージ内の Query クラスでアプリケーションを配備できない</p> <p data-bbox="319 894 1300 977">コンテナ管理による持続性 (CMP) の code-gen は、concreteImpl 内で JDO Query 変数の完全修飾名を使用しません。Query クラスが抽象 Bean と同じパッケージに格納されている場合は、コンパイルエラーが発生します。</p> <p data-bbox="319 1001 396 1025">解決法</p> <p data-bbox="319 1050 829 1074">Query クラスを別のパッケージに移動させます。</p>
4750461	<p data-bbox="319 1090 1210 1114">Solaris で、動的再読み込み時に Sun ONE Application Server がクラッシュする</p> <p data-bbox="319 1138 1300 1249">エンタープライズ Bean 数の多い大規模なアプリケーションを動的に読み込もうとすると、クラッシュが発生する場合があります。動的再読み込み機能は、開発環境で、アプリケーションのマイナーチェンジを迅速にテストするために使用されます。許可されているよりも多くのファイル記述子を使用しようとする、クラッシュが発生します。</p> <p data-bbox="319 1274 396 1298">解決法</p> <ol data-bbox="319 1322 1300 1499" style="list-style-type: none"><li data-bbox="319 1322 1300 1449">1. /etc/system ファイルに、形式を変えずに次の行を追加して、使用可能なファイル記述子の数を増やします。アプリケーションのサイズによって値を調節できます。<pre data-bbox="348 1394 634 1449">set rlim_fd_max=8192 set rlim_fd_cur=2048</pre><li data-bbox="319 1473 629 1498">2. システムを再起動します。

ID	要約
4744128	<p data-bbox="239 239 1039 270">EJB コンパイラで、内部クラス用の有効な Java コードを生成できない</p> <p data-bbox="239 288 1210 347">内部クラス型を戻すエンタープライズ Bean を実装する場合、EJB コンパイラは有効な Java コードを生成できません。</p> <pre data-bbox="239 364 1182 850">public interface IStateServer { public StateProperties getProperties(String objectID, String variantName, IToken securityToken) throws RemoteException; public class StateProperties implements Serializable { public StateProperties() { } public String description = ""; public String owner = ""; public Date modifyTime = new Date(); public String accessPermissions = ""; } } public interface IStateServerEJB extends EJBObject, IStateServer { }</pre> <p data-bbox="239 868 971 899">メソッド <code>getProperties</code> は内部クラスを返すことに注意してください。</p> <p data-bbox="239 916 485 947">エラーの例を示します。</p> <pre data-bbox="239 965 1225 1017">D:\AppServer7a\appserv\domains\domain1\server1\generated\ejb\j2ee-apps \smugglercom\spss\ssp\state\ejb\StateServerEJB_EJBObjectImpl.java:133:</pre> <p data-bbox="239 1034 911 1093">内部クラスの合成名を直接使用することはできません。 <code>com.spss.ssp.state.IStateServer\$StateProperties</code></p> <p data-bbox="239 1111 911 1170">次のコードが生成されなければなりません。 <code>com.spss.ssp.state.IStateServer.StateProperties</code></p> <p data-bbox="239 1187 911 1246">次の内容は不正です。 <code>com.spss.ssp.state.IStateServer\$StateProperties</code></p> <p data-bbox="239 1263 314 1295">解決法</p> <p data-bbox="239 1312 1016 1343"><code>StateProperties</code> を内部クラス以外の独立したクラスに移動させます。</p>

ベリファイア

この節では、ベリファイアに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4742545	<p>スタンドアロンベリファイアから EJB クラスが見つからないというエラーが報告される</p> <p>「EJB クラスが見つかりません」というメッセージが表示され、テストに失敗することがあります。EJB JAR ファイルによって使用されるエンタープライズ Bean が、同一の EAR アプリケーション内の別の EJB JAR ファイル内にあるその他のエンタープライズ Bean を参照する場合、テスト時に障害が発生します。コネクタ (RAR) に依存する EAR ファイルを検証しようとした場合も、障害メッセージが表示されます。これは、RAR バンドルを、RAR バンドルファイルに依存するエンタープライズ Bean が格納されている EAR ファイル内にパッケージ化する必要がないからです。障害 (コネクタ関連の障害を除く) を報告するのは、スタンドアロンベリファイアだけです。配備コマンドや管理インタフェースによって呼び出されたベリファイアでは、この障害は報告されません。</p> <p>解決法</p> <p>アプリケーション EAR のパッケージ化が正しいことを確認します。ユーティリティ JAR ファイルを使用している場合は、EAR ファイル内にパッケージ化されます。参照エラーを解決するには、<code>asadmin</code> または管理インタフェースを使って配備バックエンドからベリファイアを呼び出します。コネクタ関連の障害が発生する場合は、ベリファイアのクラスパスに、必要なクラスを持つ JAR ファイルを配置します。<code>install_root/bin/verifier[.bat]</code> ファイルを開き、<code>JVM_CLASSPATH</code> 変数の末尾に <code>LOCAL_CLASSPATH</code> 変数を追加できます。<code>LOCAL_CLASSPATH</code> 変数にローカルでクラスを追加したあと、ベリファイアを実行します。</p>
4743480	<p>ベリファイアがローカルホームインタフェースのスーパーインタフェースで宣言されたメソッドを検出できない</p> <p>ベリファイアは、ローカルホームインタフェースが J2EE 仕様に準拠しているかどうかをテストします。ローカルホームインタフェースがスーパーインタフェースから派生したもので、必要なメソッドがスーパーインタフェースに宣言されている場合、<code>findByPrimaryKey</code> メソッドの一部のテストが失敗します。失敗したテストは、<code>HomeInterfaceFindByPrimaryKeyArg</code>、<code>HomeInterfaceFindByKeyName</code>、<code>HomeInterfaceFindByPrimaryKeyReturn</code>、<code>PrimaryKeyClassOpt</code> という名前のテストによって実行されたものです。モジュールやアプリケーションで <code>-verify</code> オプションを使用すると、配備にも失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>関数がローカルホームインタフェースのスーパーインタフェースに正しく宣言されている場合、テスト結果は無視してかまいません。この場合、配備コマンドに <code>-verify</code> オプションを指定しないでください。配備は正しく完了します。派生したホームインタフェース内に同じ関数を宣言すれば、検証は成功します。</p>

設定

- java-config 要素の env-classpath-ignored 属性のデフォルト値は true
- このリリースでは実装されない
 - server.xml ファイルの java-config 要素の bytecode-preprocessors 属性 (将来のパフォーマンスパッチで提供される予定)
- このリリースでは推奨されない
 - is-cache-overflow-allowed
 - max-wait-time-in-millis
- J2EE 1.4 アーキテクチャの変更により、将来のリリースではサポートされない要素がある
 - mdb-container 要素の cmt-max-runtime-exceptions プロパティ

次の表に、Sun ONE Application Server 7 の設定に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4742559	<p data-bbox="321 269 1063 295">IPv6 を使用しないネットワークでは、この問題は適用されません。</p> <p data-bbox="321 321 1063 347">注: IPv6 を使用しないネットワークでは、この問題は適用されません。</p> <p data-bbox="321 364 1285 477">Sun ONE Application Server は、デフォルトで IPv4 を使用します。これは、Sun ONE Application Server を使用できるすべてのプラットフォームでサポートされています。特定のプラットフォームでは、IPv6 がサポートされています。このようなプラットフォームでは、Sun ONE Application Server の設定を変更する必要があります。</p> <p data-bbox="321 494 1299 581">注: 設定を変更する場合は、プラットフォームで IPv6 が確実にサポートされることを確認してください。IPv4 しかサポートしないシステムに IPv6 関連の設定を適用すると、サーバーインスタンスが起動しなくなることがあります。</p> <p data-bbox="321 598 399 624">解決法</p> <p data-bbox="321 651 706 677">次の手順に従って設定を変更します。</p> <ol data-bbox="321 694 1292 1354" style="list-style-type: none">1. 管理サーバーを起動します。2. 管理インタフェースを起動します (ブラウザに HTTP ホスト名とポート名を指定し、管理サーバーに接続)。3. IPv6 用に設定するアプリケーションサーバーインスタンスを選択します (server1 など)。4. ツリービューで HTTP リスナーノードを展開します。5. IPv6 用に設定する HTTP リスナーを選択します (http-listener1 など)。6. 「一般」の「IP アドレス」フィールドの値を ANY に変更します。7. 「詳細」の「ファミリー」フィールドの値を INET6 に変更します。 <p data-bbox="321 1041 1306 1128">「ファミリー」フィールドの値を INET6 に変更しても、IP アドレスとして IPv6 アドレスを選択しないかぎり、IPv4 の機能は有効です。「IP アドレス」の値が ANY の場合、IPv4 と IPv6 の両方のアドレスが有効になります。</p> <ol data-bbox="321 1145 1192 1354" style="list-style-type: none">8. 「保存」をクリックします。9. 左側のペインで、サーバーインスタンスを選択します。10. 「変更の適用」をクリックします。11. 「停止」をクリックします。12. 「起動」をクリックします。サーバーが再起動し、変更内容が有効になります。

配備記述子

この節では、配備記述子に関する既知の問題を示します。

sun-cmp-mapping.xml の問題

- このリリースでは実装されない
 - check-modified-at-commit
 - lock-when-modified

sun-ejb-jar.xml の問題

- このリリースでは推奨されない
 - is-cache-overflow-allowed
 - max-wait-time-in-millis

監視

この節では、監視に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4734595	<p>失敗した接続の合計数を確認するテストで、値が表示されない リファレンス実装 (RI) 内のダブルプーリングによって発生する問題です。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4737227	<p>http-server で FlagAsyncEnabled の値が 1 に設定されない Sun ONE Web Server の既知の問題です。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4752199	<p data-bbox="319 239 1286 298">getPrimaryKey()、getEJBMetaData()、getHomeHandle() メソッドでは、監視 Bean メソッドの属性値が表示されない</p> <p data-bbox="319 319 1286 406">監視ツールで、エンタープライズ Bean 内の監視可能なメソッドを確認できます。getPrimaryKey()、getEJBMetaData()、getHomeHandle() メソッドについては、メソッドレベルの監視属性の値が常に 0 になります。</p> <p data-bbox="319 427 394 451">解決法</p> <p data-bbox="319 472 362 496">なし</p>

サーバーの管理

この節では、次のトピックを取り上げます。

- コマンド行インタフェース (CLI)
- 管理インフラストラクチャ
- 管理インタフェース

コマンド行インタフェース (CLI)

この節では、コマンド行インタフェースに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676889	<p data-bbox="239 260 1230 329">シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、オーバーフローが発生する</p> <p data-bbox="239 347 1230 407">UNIX では、シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、コマンドの実行に失敗し、「コマンドが見つかりません」というエラーが表示されます。</p> <p data-bbox="239 425 785 451">これは端末側の制限で、CLI の制限ではありません。</p> <p data-bbox="239 468 264 494">例</p> <pre data-bbox="239 512 1230 685">create-jdbc-connection-pool --instance server4 --datasourceuser admin --datasourcepassword adminadmin --datasourceclassname test --datasourceurl test --minpoolsize=8 --maxpoolsize=32 --maxwait=60000 --poolresize=2 --idletimeout=300 --connectionvalidate=false --validationmethod=auto-commit --failconnection=false --description test sample_connectionpoolid)</pre> <p data-bbox="239 703 314 729">解決法</p> <ol data-bbox="239 746 1230 885" style="list-style-type: none">1. 実行するコマンドの文字数が 256 文字を超える場合は、マルチモードを使用してください。2. シングルモードを使用する必要がある場合は、OpenWindows コマンドツール (cmdtool) を使ってコマンドを実行してください。
4680409	<p data-bbox="239 902 1230 963">SSL を使用するように設定したあと、CLI からブラウザクライアントからも管理サーバーにアクセスできない</p> <p data-bbox="239 980 314 1006">解決法</p> <p data-bbox="239 1024 1230 1137">SSL を使って管理サーバーにアクセスする各クライアントに Sun ONE Application Server 証明書をインポートし、この証明書を持ったサーバーが信頼できるサーバーであると規定します。証明書をインポートして信頼を獲得する方法は、ブラウザによって異なります。詳細については、ご使用のブラウザのオンラインヘルプを参照してください。</p> <p data-bbox="239 1154 1230 1215">CLI では、サーバーの証明書が servercert.cer ファイル内にあり、インストールディレクトリが /INSTALL である場合、次のコマンドを実行します。</p> <pre data-bbox="239 1232 1230 1293">keytool -import -file servercert.cer -alias server -keystore /INSTALL/jdk/jre/lib/security/cacerts</pre> <p data-bbox="239 1310 1230 1373">注: この問題の発生を防止するには、管理サーバーが SSL を使用するように設定する前に、サーバーとクライアントの両方に管理サーバーの証明書をインストールしておきます。</p>

ID	要約
4688386	<p>シングルモードの CLI コマンドでアスタリスク (*) を使用すると、予期しない結果になります。または、エラーメッセージが表示されます。</p> <p>アスタリスクは、シェルによって複数の名前のリストに変換されます。コマンド行インタフェース (CLI) コマンドは、このリストの情報を受け取ります。複数の名前のリストに変換されるのを防ぐには、アスタリスクを引用符で囲みます。この場合、CLI はアスタリスクそのものを受け取ります。</p> <p>解決法</p> <p>アスタリスクを引用符または二重引用符で囲みます。</p>
4701361	<p>変更を繰り返し適用するとメモリ不足エラーになる</p> <p>管理サーバーは、メモリを使用して、システム的全変更記録を保持しています。再設定を行うと、この変更記録 (変更内容自体ではない) は破棄され、メモリが解放されます。</p> <p>解決法</p> <p>asadmin reconfig コマンドを定期的に行い、古い変更記録を破棄してください。</p>
4704328	<p>重複したドメインを作成する呼び出しに失敗したとき、クリーンアップが行われない</p> <p>既存のドメインと重複するドメインを作成すると、適切なエラーメッセージが生成されません。しかし、create-domain コマンドの -path オプションで指定されたディレクトリが作成されます (同じ名前のディレクトリが存在しない場合)。これを削除しないと、コマンドの実行に失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>-path オプションによって作成されたと思われる余分な空ディレクトリをすべて削除します。</p>
4708813	<p>デフォルト (pointbase) 接続プール JDBC リソースを監視できない</p> <p>JDBC 接続プールは、オンデマンドで動的に作成されます。つまり、プールは初めて使用するときに作成されます。プールが作成されていない (使用されていない) 場合、監視を行うことはできません。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4722007	<p data-bbox="239 239 811 269">監視: 1 ミリ秒よりも短い実行時間を測定できない</p> <p data-bbox="239 286 1206 347">エンティティ Bean メソッドを監視しているとき、<code>execution-time-millis</code> 属性の値が -1 になります。たとえば、次のコマンドを実行するとします。</p> <pre data-bbox="239 364 1225 451">iasadmin>get -m server1.application.usecase1app.ejb-module.UseCase1Ejb_jar.entity-bea n.BeanOne.bean-method.method_create0.*</pre> <p data-bbox="239 468 492 494">次の属性が戻されます。</p> <pre data-bbox="239 512 1168 746">Attribute name = total-num-errors Value = 0 Attribute name = method-name Value = public abstract com.ipplanet.ias.perf.jts.UseCase1.ejb.BeanOneRemote com.ipplanet.ias.perf.jts.UseCase1.ejb.BeanOneHome.create() throws javax.ejb.CreateException, java.rmi.RemoteException Attribute name = total-num-calls Value = 0 Attribute name = total-num-success Value = 0 Attribute name = execution-time-millis Value = -1</pre> <p data-bbox="239 763 1225 876">監視を開始する前に、<code>execution-time-millis</code> のデフォルト値は -1 に設定されます。これは、その時点で属性値を無効にするためです。このように非常に低い値が設定されるのは、デフォルト値が 0 になっていると、すでに実行時間が測定されていたと誤って判断されるからです。</p> <p data-bbox="239 894 321 920">解決法</p> <p data-bbox="239 937 464 963">解決法はありません。</p>
4733109	<p data-bbox="239 980 1225 1050">コマンド行インタフェースで作成した持続マネージャファクトリリソースを表示しているとき、管理インタフェースにペリファイアのエラーが報告される</p> <p data-bbox="239 1067 1192 1128">コマンド行インタフェースで作成された持続マネージャファクトリリソースを管理インタフェースに表示しているとき、リソースに関する次のエラーが報告されます。</p> <pre data-bbox="239 1145 1185 1197">ArgChecker Failure: Validation failed for jndiName: object must be non-null</pre> <p data-bbox="239 1215 321 1241">解決法</p> <p data-bbox="239 1258 464 1284">解決法はありません。</p>

ID	要約
4742993	<p data-bbox="319 239 1300 296">Solaris で、Solaris に統合されている Sun ONE Application Server 上で flexanlg コマンドを使用すると、オープン障害が発生する</p> <p data-bbox="319 314 1300 401">Solaris オペレーティング環境に統合されている Sun ONE Application Server を実行している場合、/usr/appserver/bin から flexanlg コマンドを実行すると、オープン障害エラーが発生します。</p> <pre data-bbox="319 418 1300 505">ld.so.1:/usr/appserver/bin/flexanlg: fatal: libplc4.so: 開くことができませんでした : そのようなファイルまたはディレクトリはありません 強制終了</pre> <p data-bbox="319 522 396 546">解決法</p> <p data-bbox="319 564 639 588">次の手順を実行してください。</p> <ol data-bbox="319 607 1005 644" style="list-style-type: none">1. LD_LIBRARY_PATH ファイルに次のエントリを追加します。 <pre data-bbox="319 661 491 685">/usr/lib/mps</pre> <ol data-bbox="319 703 725 739" style="list-style-type: none">2. flexanlg コマンドを実行します。 <pre data-bbox="319 756 733 781">% /usr/appserver/bin/flexanlg</pre>
4750518	<p data-bbox="319 795 1025 819">ターゲット管理サーバー上で一部の CLI コマンドが動作しない</p> <p data-bbox="319 836 1300 923">ターゲット管理サーバーの CLI では、create、delete、list コマンドを使って、管理サーバーの server.xml ファイル内で新しい要素 (SSL、mime、プロファイラ、リソースなど) を作成、削除、一覧表示することができません。</p> <p data-bbox="319 940 396 965">解決法</p> <p data-bbox="319 982 1272 1052">管理サーバー内で要素を作成、削除、一覧表示するには、管理インタフェースを使用します。</p>

管理インフラストラクチャ

この節では、管理インフラストラクチャに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676888	<p data-bbox="239 361 1253 387">Microsoft Windows 2000 では、JVM ヒープサイズが大きいと JVM を作成できない</p> <p data-bbox="239 413 1253 465">Windows 2000 で JVM ヒープサイズを大きくしようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p data-bbox="239 491 1253 569">Error occurred during initialization of VM, Could not reserve enough space for object heap 内部エラー : unable to create JVM</p> <p data-bbox="239 595 1253 621">解決法</p> <p data-bbox="239 647 1253 699">Windows 2000 で、Sun ONE Application Server の JAVA ヒープサイズを大きくするには、Sun ONE Application Server の DLL を再設定 (rebase) する必要があります。</p> <p data-bbox="239 725 1253 829">Microsoft Framework SDK と Microsoft Visual Studio に付属している Rebase ユーティリティを使って、複数の DLL に、JVM ヒープのサイズを向上させる最適なベースアドレスを設定できます。SDK Help Rebase トピックでは、アドレス 0x6000000 の使用を推奨しています。Rebase ユーティリティの詳細については、次の URL を参照してください。</p> <p data-bbox="239 855 1253 899">http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/tools/tools/performance_tools.asp</p> <p data-bbox="239 925 1253 951">要件：</p> <ul data-bbox="239 977 1253 1046" style="list-style-type: none">• 2～4G バイトのメモリを持つ Windows 2000 システム• Visual Studio または Microsoft Framework SDK の Rebase ユーティリティ <p data-bbox="239 1064 1253 1090">S1AS の動的ライブラリに Rebase を適用するには、次の手順に従ってください</p> <ol data-bbox="239 1116 1253 1263" style="list-style-type: none">1. cd コマンドを使って <i>install_dir</i>\bin に移動します。2. rebase -b 0x6000000 *.dll3. cd ../lib4. rebase -b 0x6600000 *.dll

ID	要約
4686003	<p data-bbox="318 239 714 263">HTTP の QOS 制限が適用されない</p> <p data-bbox="318 288 1308 374">サービス品質 (QOS) では、最大 HTTP 接続数と帯域幅を指定できます。これらの属性の制限値を超えると、クライアントに 503 エラーが戻されます。しかし、管理インタフェースを使って QOS を有効にすると、サーバーは QOS の制限を適用しなくなります。</p> <p data-bbox="318 395 396 420">解決法</p> <p data-bbox="318 440 1289 552">QOS 機能をすべて有効にするには、仮想サーバーの <code>obj.conf</code> ファイル内のデフォルトオブジェクトの先頭に <code>AuthTrans fn=qos-handler</code> 行を手動で追加します。qos-handler サーバーアプリケーション関数 (SAF) と <code>obj.conf</code> 設定ファイルについては、『Developer's Guide to NSAPI』を参照してください。</p>
4692673	<p data-bbox="318 572 1308 631">非デバッグモードで実行していたインスタンスをデバッグモードで再起動すると、失敗することがある</p> <p data-bbox="318 652 1308 798">「デバッグモードで起動または再起動」チェックボックスをオフにした状態でインスタンスを起動すると、このチェックボックスに関連した設定が機能しなくなります。たとえば、管理インタフェースで「デバッグを有効」チェックボックスを選択しても、チェックボックスはオンになりません。server.xml ファイルの <code>debug-enabled</code> 行の値も <code>false</code> になります (<code>debug-enabled=false</code>)。</p> <p data-bbox="318 819 396 843">解決法</p> <p data-bbox="318 864 544 888">解決法はありません。</p>
4699450	<p data-bbox="318 909 1308 968">Microsoft Windows 2000 で EAR ファイルを配備する際、生成されたファイルのパスの長さが全体で 260 文字を超えると失敗する</p> <p data-bbox="318 989 1308 1072">Windows 2000 では、Java 仮想マシン (JVM) の制限により、生成されたファイルのパス名は 260 文字以下と定められています。これは、JVM の Microsoft Windows サポートに関する問題であり、J2SE 1.5 リリースで修正される予定です。</p> <p data-bbox="318 1093 396 1117">解決法</p> <p data-bbox="318 1138 1308 1190">アプリケーションを配備するとき、パスとファイル名の文字数の合計が 260 文字以内に収まるようにします。</p>

ID	要約
4723776	<p data-bbox="239 239 1029 265">Solaris で、SSL 対応の環境に移行すると、サーバーの起動に失敗する</p> <p data-bbox="239 288 1228 434">証明書をインストールし、セキュリティを有効にしたあと、Sun ONE Application Server を再起動しようとするとき失敗します。サーバーがパスワードの受け取りに失敗したというメッセージが表示されます。「起動」ボタンを再度クリックすると、サーバーが起動します。SSL が有効になっていないと、パスワードがキャッシュに格納されず、再起動に失敗します。restart コマンドは、非 SSL モードから SSL モードへの移行をサポートしません。</p> <p data-bbox="239 453 1228 508">注: この問題は、サーバーを初めて再起動するときだけ発生します。2 回目以降の再起動は正常に行われます。</p> <p data-bbox="239 527 315 553">解決法</p> <p data-bbox="239 572 819 598">この問題が発生したら、次のことを行なってください。</p> <p data-bbox="272 618 629 644">「起動」ボタンをクリックします。</p> <p data-bbox="239 663 1205 718">この問題が発生するのを防ぐには、「再起動」ボタンをクリックしないで、次の手順を実行してください。</p> <p data-bbox="272 737 629 763">「停止」ボタンをクリックします。</p> <p data-bbox="272 765 629 791">「起動」ボタンをクリックします。</p>
4724780	<p data-bbox="239 810 1019 836">別のシステムで作成されたドメインでは管理サーバーを起動できない</p> <ul data-bbox="239 855 1228 1020" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 855 1228 946">• PCNFS がマウントされたドライブで作成されたドメインでは、PCNFS ドライブに関する Microsoft の既知の問題により、管理サーバーとその他のインスタンスを起動できません。<li data-bbox="239 965 1228 1020">• ディレクトリパスが異なっても、製品がインストールされているローカルドライブで作成されたドメインであれば、管理サーバーもインスタンスも正常に動作します。 <p data-bbox="239 1039 315 1065">解決法</p> <p data-bbox="239 1085 462 1111">解決法はありません。</p>
4734184	<p data-bbox="239 1130 943 1156">Microsoft Windows 2000 でコンソールが無効になることがある</p> <p data-bbox="239 1175 1228 1265">まれに、配備時やコマンドの実行時に管理サーバーやアプリケーションサーバーインスタンスがハングアップすることがあります。この問題は、コンソールログのテキストが選択されている場合に発生します。テキストの選択を解除すれば、処理は続行します。</p> <p data-bbox="239 1284 315 1310">解決法</p> <p data-bbox="239 1329 1228 1416">log-service create-console 属性を false に設定して、server1 インスタンスのコンソール自動作成機能を無効にします。コンソールログ上でマウスボタンをクリックするか Enter キーを押しても問題を解決できます。</p>

ID	要約
4736554	<p>サーバーからセキュリティが有効な HTTP リスナーを削除したあとも、(もう存在しない)パスワードの入力を求めるプロンプトが表示される</p>
	<p>解決法</p>
	<p>サーバー全体を削除し、追加し直します。</p>
	<p>注: この問題の発生を防止するには、HTTP リスナーを削除する前に、次のコマンドを使ってセキュリティを無効化します。</p>
	<pre>/export2/build/bin/> asadmin set --user admin --password adminadmin server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=false Attribute securityEnabled set to false. /export2/build/bin/> asadmin delete-http-listener --user admin --password adminadmin ls2 Deleted Http listener with id = ls2</pre>
4737756	<p>Microsoft Windows 2000 で、コンソールにメッセージが正しく表示されない</p>
	<p>Windows 2000 の非英語ロケール(日本語ロケールなど)では、コンソールにメッセージが正しく表示されないことがあります。</p>
	<p>解決法</p>
	<p>管理インターフェースを使ってログメッセージを表示します。</p>

ID	要約
4739831	<p data-bbox="239 244 1222 302">インスタンスの一部が削除されていると、一部の CLI コマンドから正しい応答を得ることができない</p> <p data-bbox="239 324 1196 380">サーバーインスタンスの一部が削除されていると、一部の CLI コマンドで問題が発生します。以下に、問題とその解決方法を示します。</p> <ol data-bbox="239 401 1213 456" style="list-style-type: none">1. <code>create-instance</code> をローカルモードで実行すると、サブディレクトリが存在していない場合も、インスタンスフォルダ内にインスタンスが存在すると報告される <p data-bbox="239 477 315 499">解決法</p> <p data-bbox="239 520 1203 576">インスタンスディレクトリを手動で削除してから <code>create-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol data-bbox="239 597 1222 652" style="list-style-type: none">2. <code>list-instances</code> コマンドをローカルモードで実行すると、インスタンス名と状態情報が一部削除された状態で出力される <p data-bbox="239 673 315 696">解決法</p> <p data-bbox="239 716 1208 739">インスタンスディレクトリを手動で削除してから <code>list-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol data-bbox="239 760 1203 815" style="list-style-type: none">3. Microsoft Windows 2000 で、<code>start-instance</code> コマンドをリモートモードで実行すると、<code>null</code> 文字列が表示される <p data-bbox="239 836 315 859">解決法</p> <p data-bbox="239 880 1096 935">インスタンスディレクトリを手動で削除し、新しいインスタンスを作成してから <code>start-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol data-bbox="239 956 1219 1071" style="list-style-type: none">4. Microsoft Windows 2000 で <code>stop-instance</code> コマンドをローカルモードまたはリモートモードで実行すると、不正な例外が報告される。ローカルモードでは、インスタンスが実行されていないという不正なメッセージが表示されます。リモートモードでは、<code>null</code> 文字列が表示されます。 <p data-bbox="239 1091 1222 1177">Solaris で、<code>stop-instance</code> コマンドをローカルモードで実行すると、実際には <code>config</code> というディレクトリは存在しないのに、インスタンスの <code>config</code> ディレクトリにアクセスするアクセス権がないというメッセージが表示される</p> <p data-bbox="239 1197 315 1220">解決法</p> <p data-bbox="239 1241 751 1263">インスタンスディレクトリを手動で削除します。</p>
4739891	<p data-bbox="239 1289 1222 1374">仮想サーバーによって参照されるデフォルトの Web モジュールが存在しない場合、またはこのモジュールの配備が取り消された場合、仮想サーバーを削除しようとすると失敗する</p> <p data-bbox="239 1395 315 1418">解決法</p> <p data-bbox="239 1439 1208 1524">仮想サーバーの「デフォルト Web モジュール」フィールドの値を「何も選択されていません」に設定し、「了解」をクリックして変更内容を保存します。その後、仮想サーバーを削除します。</p>

ID	要約
4740022	<p data-bbox="319 239 1290 302">SNMP: 新しいインスタンスサーバーを追加して起動すると、END OF MIB メッセージが表示される</p> <p data-bbox="319 319 1296 378">インスタンスサーバーとサブエージェントをシャットダウンしないで新しいインスタンスを追加し、起動すると、END OF MIB メッセージが表示されます。</p> <p data-bbox="319 395 396 425">解決法</p> <ol data-bbox="319 442 1302 668" style="list-style-type: none">1. 新しいインスタンスを表示するには、サブエージェントとすべてのインスタンスサーバープロセスをシャットダウンします。各サーバーで、「監視」の「SNMP 統計収集を有効」をオンに設定します。その後、各インスタンスサーバーを再起動し、サブエージェントプロセスを1つだけ再起動します。2. サブエージェントがすでに実行中の場合は、これ以上起動しないでください。Sun ONE Application Server をインストールするときは、必ずマスターエージェントとサブエージェントを1個ずつ使用します(全ドメイン、全インスタンスに共通)。
4737138	<p data-bbox="319 678 1262 741">Microsoft Windows Services や DOS プロンプトにライセンスの有効期限切れを示すメッセージが表示されない</p> <p data-bbox="319 758 1290 845">ライセンスの有効期限が切れたあと、Windows Services や DOS プロンプトコマンド (startserv.bat) を使ってサーバーを起動すると、ライセンスの有効期限切れを示すメッセージが表示されません。</p> <p data-bbox="319 862 1216 894">解決法 CLI (asadmin) または Sun のプログラムアイコンからサーバーを起動します。</p>
4780488	<p data-bbox="319 904 925 933">複数の obj.conf ファイルが存在すると、混乱が生じる</p> <p data-bbox="319 951 1308 1102">Sun ONE Application Server インスタンスを作成すると、<i>instance-dir/config/</i> ディレクトリに <i>obj.conf</i> と <i>virtual-server-name-obj.conf</i> と呼ばれる2つの <i>obj.conf</i> ファイルが格納されます。<i>virtual-server-name</i> はインスタンスの作成時に自動的に作成される仮想サーバーのインスタンス名です。このマニュアルでは、対象の仮想サーバーと関連する <i>obj.conf</i> ファイルを変更することを、「<i>obj.conf</i> ファイルの変更」と表示します。</p> <p data-bbox="319 1119 1308 1263">Sun ONE Application Server がインストールされている場合、<i>obj.conf</i> と <i>server1-obj.conf</i> ファイルは <i>/domains/domain1/server1/config/</i> ディレクトリに格納されます。<i>obj.conf</i> ファイルの内容は仮想サーバーレベルで指定された <i>server1-obj.conf</i> ファイルの内容にオーバーライドされます。Sun ONE Application Server インスタンスは <i>obj.conf</i> を使用しません。</p> <p data-bbox="319 1281 1273 1367">たとえば、<i>passthrough</i> プラグインを使って Sun ONE Application Server を設定する際、<i>obj.conf</i> ファイルを変更すると、不正な <i>obj.conf</i> ファイルが変更されるので、<i>passthrough</i> 設定が有効になりません。</p> <p data-bbox="319 1385 396 1414">解決法</p> <p data-bbox="319 1432 1302 1491"><i>obj.conf</i> ファイルを変更する場合は、<i>obj.conf</i> の前に対象の仮想サーバー名が付加されたファイルを変更します。</p>

管理インタフェース

管理インタフェースを使用するときは、ブラウザがキャッシュからではなくサーバーから最新のページを取り出す設定になっているかどうかを確認してください。一般に、デフォルトのブラウザ設定では問題は発生しません。

- **Internet Explorer** では、「ツール」->「インターネットオプション」->「設定」を選択し、「保存しているページの新しいバージョンの確認」で「確認しない」が選択されていないことを確認します。
- **Netscape** では、「編集」->「設定」->「詳細」->「キャッシュ」を選択し、「キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較」で「しない」が選択されていないことを確認します。

この節では、Sun ONE Application Server 7 の管理用グラフィカルユーザーインタフェースに関する既知問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4722607	<p data-bbox="239 725 1210 784">Microsoft Windows 2000 では、新しく作成された MIME ファイルに .types 拡張子が付いていないと、このファイル内のエントリを編集または削除できない</p> <p data-bbox="239 805 1210 888">Windows 2000 では、MIME ファイル名に必ず .types 拡張子を付けます。そうしないと、ファイル内のエントリを編集できません。MIME ファイル名は、mime2 ではなく mime2.types のようになります。</p> <p data-bbox="239 909 314 933">解決法</p> <p data-bbox="239 954 896 986">MIME ファイル名には必ず .types 拡張子を付けてください。</p>

ID	要約
4725473	管理インタフェースのニックネームリストに外部証明書のニックネームが表示されない

Sun ONE Application Server 管理インタフェースを使って外部証明書をインストールした場合、外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書を使って HTTP リスナーで SSL を有効にしようとするとう問題が発生します。証明書は正しくインストールされていますが、管理インタフェースに証明書のニックネームが表示されません。

解決法

1. 管理ユーザーとして、Sun ONE Application Server のインストールマシンにログインします。
2. HTTP リスナーと外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書をリンクします。asadmin コマンドを実行します。asadmin コマンドの詳細については、asadmin(1M) のマニュアルページを参照してください。

```
/sun/appserver7/bin/asadmin create-ssl
--user admin --password password
--host host_name
--port 8888
--type http-listener
--certname nobody@apprealm:Server-Cert
--instance server1
--ssl3enabled=true
--ssl3tlsciphers +rsa_rc4_128_md5
http-listener-1
```

このコマンドは、証明書とサーバーインスタンスをリンクします。証明書のインストールは行いません (証明書は管理インタフェースを使用してインストール済み)。証明書と HTTP リスナーのリンクは確立されていますが、HTTP リスナーは非 SSL モードで待機します。

3. 次の CLI コマンドを使って、HTTP リスナーが SSL モードで待機するように設定します。

```
/sun/appserver7/bin/asadmin set
--user admin
--password password
--host host_name
--port 8888
server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=true
```

このコマンドは、サーバーインスタンスの待機モードを非 SSL から SSL へ切り替えます。

上記の手順が完了すると、管理インタフェースに証明書が表示されます。

4. これで、管理インタフェースを使って HTTP リスナーを編集できる状態になりました。
-

ID	要約
4728718	<p data-bbox="239 239 1225 300">新しい仮想サーバーを作成し、ログファイルの場所を示す値を指定すると、「ファイルが見つかりません」というエラーが報告される</p> <p data-bbox="239 317 1035 343">管理インタフェースのログファイルフィールドでは、値を追加できません。</p> <p data-bbox="239 361 317 387">解決法</p> <p data-bbox="239 404 1225 465">作成した仮想サーバーをいったん削除し、必要なファイルを作成します。その後、再度仮想サーバーを作成します。</p> <p data-bbox="239 482 1225 543">注：この問題の発生を防止するには、新しい仮想サーバーを作成する前にログファイルを作成するようにします。</p>
4741123	<p data-bbox="239 560 1225 621">Solaris 9 update 2 のデフォルトのブラウザは、Sun ONE Application Server 7 と互換性がない</p> <p data-bbox="239 638 1225 699">Solaris 9 4/03 オペレーティング環境のデフォルトのブラウザで Sun ONE Application Server の管理インタフェースを使用しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p data-bbox="239 716 739 743">Unsupported Browser: Netscape 4.78.</p> <p data-bbox="239 760 1225 847">Netscape 4.79 または 6.2 のブラウザにアップグレードすることを推奨します。アップグレードをせずこのままご使用になった場合、パフォーマンスの低下や予期せぬ現象を引き起こす原因となります。</p> <p data-bbox="239 864 1225 925">注：Solaris 9 4/03 オペレーティング環境に含まれている Sun ONE Application Server の管理インタフェースを実行中の場合は、Netscape 4.79 または 7.0 を使用する必要があります。</p>
	<p data-bbox="239 942 317 968">解決法</p> <ul data-bbox="239 986 1225 1185" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 986 1225 1072">• スタンドアロンの Sun ONE Application Server 7 用のブラウザを Netscape 4.79 あるいは Netscape 6.2 にアップグレードするには、<code>/usr/dt/bin/netscape</code> ではなく、<code>/usr/dt/bin/netscape6</code> を使います。<li data-bbox="239 1090 1225 1185">• Solaris にバンドルされている Sun ONE Application Server 7 用のブラウザを Netscape 4.79 あるいは Netscape 7 にアップグレードするには、<code>/usr/dt/bin/netscape</code> ではなく、<code>/usr/dt/appconfig/SUNWns/netscape</code> を使います。
4750616	<p data-bbox="239 1194 1225 1255">Netscape Navigator の一部のバージョンではアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされない</p> <p data-bbox="239 1272 1225 1359">Netscape Navigator バージョン 6.x または 7.x の使用時に ACL エントリを編集しようとする、ブラウザが表示されなくなる、ACL 編集画面が表示されないなどの問題が断続的に発生します。</p> <p data-bbox="239 1376 317 1402">解決法</p> <p data-bbox="239 1420 588 1446">次のいずれかの措置をとります。</p> <ul data-bbox="239 1463 1225 1576" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 1463 916 1489">• サポートされている Netscape Navigator 4.79 を使用します。<li data-bbox="239 1506 1225 1576">• 手動で ACL ファイルを編集します。ACL ファイル形式の詳細については、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』を参照してください。

ID	要約
4752055	<p data-bbox="318 239 1229 263">Netscape 4.8 を使用すると、管理インタフェースに警告メッセージが表示される</p> <p data-bbox="318 288 1296 401">Netscape 4.8 を使って管理インタフェースにアクセスすると、Netscape 4.8 はサポートされていないブラウザであるという警告メッセージが表示されます。Netscape 4.8 で管理インタフェースを実行しても問題は確認されていませんが、より徹底したテストが必要とされています。</p> <p data-bbox="318 425 396 449">解決法</p> <p data-bbox="318 473 1296 526">引き続き管理インタフェースを使用する場合は、警告メッセージの「継続」リンクを選択します。</p> <p data-bbox="318 550 1046 574">Netscape 4.79 を使用するか、Netscape 6.2 にアップグレードします。</p>
4760714	<p data-bbox="318 591 1110 616">「証明書インストール」画面に無効な「ヘルプ」ボタンが表示される</p> <p data-bbox="318 640 1296 753">「証明書インストール」画面には、入力された証明書情報が一覧表示されます。管理インタフェースのこの画面に無効な「ヘルプ」ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、ヘルプページが見つからないというエラーメッセージが表示されます。コンテキストヘルプを使用するには、ページ上部の「ヘルプ」リンクをクリックする必要があります。</p> <p data-bbox="318 777 396 802">解決法</p> <p data-bbox="318 826 1258 850">コンテキストヘルプを使用するには、ページ上部の「ヘルプ」リンクをクリックします。</p>
4760939	<p data-bbox="318 869 1296 921">SSL: 「証明書ニックネーム」に certutil によって生成された自動署名証明書が表示されない</p> <p data-bbox="318 946 1296 998">自動署名証明書が certutil によって生成されていると、管理インタフェースに「証明書ニックネーム」が表示されません。</p> <p data-bbox="318 1022 396 1046">解決法</p> <p data-bbox="318 1071 1296 1123">自動署名証明書を使用する場合は、server.xml ファイルを手動で編集する必要があります。</p>
4848146	<p data-bbox="318 1138 1296 1190">ブラウザでプロキシサーバーを使用している場合、管理インタフェースへアクセスするとエラーが発生する</p> <p data-bbox="318 1215 1296 1302">ブラウザがプロキシサーバーを使用するように設定されていて、そのプロキシサーバーで localhost を無視するように設定されていない場合、「スタート」メニューから「Start Admin Console」を選択するとエラーが発生します。</p> <p data-bbox="318 1326 396 1350">解決法</p> <p data-bbox="318 1374 1296 1426">プロキシサーバーを無効にするか、プロキシサーバーで無視されるドメインのリストに localhost を含めます。</p>

Sun ONE Studio 4 プラグイン

この節では、Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition (旧称 Forte for Java) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4689097	<p>Sun ONE Studio 4 によって使用されるディレクトリのパスに空白文字があるとエラーが発生する</p> <p>ディレクトリ構造に空白文字が含まれていると、Sun ONE Studio 4 が正常にインストールされません。インストーラはインストールパスの空白文字をチェックし、発見するとエラーダイアログを表示します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server の Sun ONE Studio 4 コンポーネントのインストールディレクトリを指定するときは、空白文字を使用しないでください。</p>
4720145	<p>デバッガへの接続中に ConnectionException がスローされる</p> <p>新しいデバッグセッションを作成するかどうかを確認するメッセージが繰り返し表示され、例外がスローされます。</p> <p>解決法</p> <p>IDE を再起動します。</p>
4727932	<p>FFJ で MAD 環境を使用すると副作用が発生する</p> <p>Sun ONE Studio 4 で MAD 設定を使用すると、断続的に副作用が発生します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Studio 4 では MAD 設定を使用しないでください。</p>
4733794	<p>アプリケーションノードに適用した ejb-name の変更を配備できない</p> <p>アプリケーションノードのコンテキストメニュー (右クリックメニュー) から「EJB 名を表示」を選択したときに表示されるダイアログを使って、アプリケーションのコンテキストで Bean の ejb-name 要素を変更できます。これらの変更は、パッケージ化の一環として作成された alt-dd に適用されます。名前の変更は Sun ONE Application Server の alt-dd には伝達されません。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4745283	<p data-bbox="321 234 1299 303">管理クライアントだけをインストールした場合、アプリケーションクライアントを実行できない</p> <p data-bbox="321 312 1299 407">管理クライアントまたは Sun ONE Studio プラグインだけをインストールした場合、アプリケーションクライアントを実行できません。アプリケーションクライアントは、管理クライアントとは別のパッケージです。</p> <p data-bbox="321 416 399 451">解決法</p> <p data-bbox="321 460 1299 590">アプリケーションクライアントパッケージをインストールします。このためには、完全インストールして <code>appclient (SUNONE_INSTALL_ROOT/bin</code> に格納されている) を実行するか、Sun ONE Application Server がインストールされているリモートマシンから <code>appclient</code> パッケージを取得します。</p> <p data-bbox="321 598 942 633"><code>appclient</code> パッケージを取得する方法は次のとおりです。</p> <ol data-bbox="321 642 1299 1067" style="list-style-type: none">1. <code>SUNONE_INSTALL_ROOT/bin/package-appclient [.bat]</code> を実行します。 <code>SUNONE_INSTALL_ROOT/lib/appclient/appclient.jar</code> に <code>appclient.jar</code> ファイルが生成されます。2. Sun ONE Application Server がインストールされていないリモートマシンに <code>appclient.jar</code> を配備し、<code>appclient.jar</code> を <code>unjar</code> します。アプリケーションクライアントライブラリと JAR ファイルが格納されているアプリケーションクライアントディレクトリが作成されます。3. <code>appclient.jar</code> ファイルに格納されている <code>bin/appclient</code> スクリプトを編集します。スクリプトを初めて使用する前に編集を済ませておいてください。%CONFIG_HOME% 文字列は <code>asenv.conf</code> の実際のパス (Windows 2000 の場合は <code>asenv.bat</code>) で置き換えられます。4. <code>asenv.conf</code> (Microsoft Windows 2000 の場合は <code>asenv.bat</code>) を次のように設定します。 <pre data-bbox="321 1076 1170 1232">%AS_INSTALL%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT %AS_JAVA%=Your_Installed_Java_Home %AS_IMQ_LIB%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/imq/lib %AS_ACC_CONFIG%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/config/sun-acc.xml %AS_WEBSERVICES_LIB%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/lib</pre> <p data-bbox="321 1241 1299 1362">注: <code>appclient.jar</code> ファイルは、このファイルが作成されたマシンと同じオペレーティングシステムを実行しているリモートマシンから実行しなければなりません。たとえば、Solaris プラットフォームで作成された <code>appclient.jar</code> は、Windows 2000 上では機能しません。</p> <p data-bbox="321 1371 1199 1414">詳細については、<code>package-appclient</code> のマニュアルページを参照してください。</p>

ID	要約
4725779	<p>事前に設定された Sun ONE 固有のプロパティ値がエディタに表示されない</p> <p>Sun ONE Application Server に配備するためにすでに設定された RAR ファイルがある場合、プロパティシートでこのファイルのプロパティ値を確認しようとする、デフォルトの値だけが表示されます。sun-ra.xml ファイルに指定された値は表示されません。</p> <p>解決法</p> <p>RAR から Sun 固有の記述子 XML ファイルを抽出し、RAR と同じディレクトリに置きます。これで、s1as 記述子を編集できるようになります。</p> <p>注: この方法でファイルを編集しても、RAR ファイルの元のコンテンツは変更されません。ただし、サーバーに送信された RAR ファイルには、更新された XML ファイルの内容が追加されます。</p>
4733794	<p>アプリケーションノードに適用した EJB 名の変更を配備できない</p> <p>アプリケーションノードのコンテキストメニュー (右クリックメニュー) から「EJB 名を表示」を選択したときに表示されるダイアログを使って、アプリケーションのコンテキストで Bean の ejb-name 要素を変更できます。これらの変更は、パッケージ化の一環として作成された alt-dd に適用されます。名前の変更は Sun ONE Application Server の alt-dd には伝達されません。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

サンプルアプリケーション

- ANT ディレクトリ構造とともにサンプルアプリケーションソースが用意されています。ただし、Sun ONE Studio 用のアプリケーションではないので、EJB モジュールなどのアイコンは表示されません。サンプルの src フォルダをマウントすると、ソースファイルだけが表示されます。
- Sun ONE Studio は ANT 対応ですが、ANT ターゲットを使ってサンプルアプリケーションを配備することはできません。つまり、ANT target = all コマンドの実行結果と、シェルから ant all コマンドを実行したときの結果は同じにはなりません。
- 既存の ANT 型アプリケーションは、Sun ONE Studio (Sun ONE Studio の ANT) を使って正常にコンパイルできます。

この節では、Sun ONE Application Server 7, Update 1 のサンプルアプリケーションに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4714439	<p>PetStore では、すでに存在するユーザーを重複して追加することができない</p> <p>PetStore サンプルアプリケーションでは、すでに存在するユーザーを追加しようとすると、画面にスタックトレースが表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4726161	<p>変更されたサンプルは、再配備しないかぎり更新されない</p> <p>アプリケーションに小さな変更を加えて再パッケージ化してから、サンプルを再配備すると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>「Already Deployed」</p> <p>この問題は Ant ユーティリティと common.xml ファイルを使用しているサンプルで発生します。このユーティリティとファイルには配備ターゲットが存在するため、アプリケーションの配備とリソースの登録が混同されるのです。</p> <p>解決法</p> <p>次のいずれかの措置をとります。</p> <p>Ant ユーティリティ build.xml ファイルを使用するサンプルアプリケーションの多くには、common.xml ファイルが含まれています。この場合は、次のコマンドを入力してください。</p> <pre>% asant deploy_common</pre> <p>それ以外のサンプルアプリケーションの場合は、次のコマンドを入力してください。</p> <pre>% asant undeploy % asant deploy</pre>
4733412	<p>サンプルアプリケーションコンバータの Web モジュール内に余計な JAR ファイルがある</p> <p>コンバータアプリケーションの WEB-INF/lib ディレクトリ内に、余計なステートレスコンバータ EJB JAR ファイルがあります。EAR ファイルは、サンプルアプリケーションディレクトリ内にあります。バンドル版の Solaris ビルドでは、次の場所にあります。</p> <pre>/usr/appserver/samples/ejb/stateless/converter/stateless-converter.ear</pre> <p>このファイルを抽出して、stateless-converter という名前の Web モジュールの WEB-INF/lib ディレクトリに移動すると、余計な JAR ファイルが見つかります。この JAR ファイルは、EJB モジュールを呼び出すすべての Web モジュールに適用されます。問題の原因は、アプリケーションのビルド時に使用する common.xml ファイルにあります。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。サンプルアプリケーションの実行時の機能には影響はありません。</p>

ID	要約
4739854	<p data-bbox="239 244 819 267">asadmin を使ったリソースの配備方法の説明がない</p> <p data-bbox="239 291 1225 347">一部のサンプルのマニュアルには、<code>asadmin</code> コマンドを使ってアプリケーションを配備するようにと記述されているだけで、必要なリソースを作成する手順が記載されていません。</p> <p data-bbox="239 369 315 392">解決法</p> <p data-bbox="239 414 1225 499"><code>asadmin</code> コマンドを使ってアプリケーションまたはリソースを配備できます。サンプルの <code>build.xml</code> ファイルからは詳細情報を取得できます。詳細情報は、<code>asant deploy</code> の実行結果からも確認できます。</p> <p data-bbox="239 522 1225 605">JDBC/BLOB の例の場合、次の手順で、<code>asadmin</code> を使ってリソースを作成します。なお、ホスト名は <code>jackiel2</code> とします。管理サーバーのユーザー名、パスワード、ポートは、それぞれ <code>admin</code>、<code>adminadmin</code>、<code>4848</code> とします。</p> <pre data-bbox="239 628 1225 899">asadmin create-jdbc-connection-pool --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin jdbc-simple-pool --datasourceclassname com.pointbase.jdbc.jdbcDataSource --instance server1 asadmin set --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin server1.jdbc-connection-pool.jdbc-simple-pool.property.DatabaseName=j dbc:pointbase:server://localhost/sun-appserv-samples</pre>
4747534	<p data-bbox="239 921 1225 977">lifecycle-multithreaded サンプルアプリケーションでは、管理ユーザーのパスワードを 8 回も入力しなければならない</p> <p data-bbox="239 999 1225 1085"><code>asant deploy</code> コマンドを使ってサンプルアプリケーションファイル <code>lifecycle-multithreaded.jar</code> を配備する場合、管理ユーザーのパスワードを 8 回入力する必要があります。</p> <p data-bbox="239 1107 315 1130">解決法</p> <p data-bbox="239 1152 462 1175">解決法はありません。</p>

ID	要約
4748535	<p data-bbox="317 239 696 267">その他のサンプルファイルの問題</p> <ol data-bbox="317 288 1285 406" style="list-style-type: none">1. Logging サンプルの 4 番目のログオプションで複数のログファイルが生成される2. Logging サンプルには余計な log.properties ファイルが含まれている3. サンプルのマニュアルに記載されているセキュリティに関する説明が一部間違っている <p data-bbox="317 427 396 454">解決法</p> <ol data-bbox="317 475 1293 531" style="list-style-type: none">1. ハンドラを閉じてから削除します。GreeterServlet.java 内の initLog() メソッドを参照してください。 <pre data-bbox="317 545 876 808">private void initLog(String log_type) { // Remove all handlers Handler[] h = logger.getHandlers(); for (int i = 0; i < h.length; i++) { h[i].close(); //must do this logger.removeHandler(h[i]); } ... }</pre> <p data-bbox="317 829 1148 885">さらに、append オプションを指定してファイルハンドラを開きます。GreeterServlet.java 内の addHandler() メソッドを参照してください。</p> <p data-bbox="317 906 1225 933">Handler fh = new FileHandler(log_file); の行を次の内容でおきかえます。</p> <pre data-bbox="317 947 959 975">Handler fh = new FileHandler(log_file, true);</pre> <ol data-bbox="317 996 1285 1223" style="list-style-type: none">2. build.xml ファイルを次のように編集します。<pre data-bbox="317 1041 1176 1142">< fileset dir="\${src.docroot}" excludes="cvs, annotation"/> < fileset dir="\${src.docroot}" excludes="cvs, annotation, log.properties"/></pre>3. 「Running the Sample Application」の節で、server.policy ファイルにセキュリティ許可エントリを追加する方法の説明から domains/domain1/ を除去します。

ID	要約
4752731	<p>PointBase 4.3 の PointBase 4.4 への置き換え</p> <p>サンプルとともに PointBase をダウンロードし、インストールする手順の説明 (http://hostname:port/samples/docs/pointbase.html) に、PointBase 4.3 という記述があります。正しくは PointBase 4.4 です。</p> <p>解決法</p> <p>「Update Samples Ant Files」の節では、pbtools43.jar ファイルと pbclient43.jar ファイルの代わりに pbtools44.jar ファイルと pbclient44.jar ファイルを使用してください。</p> <p>「Starting PointBase」の節は、UNIX プラットフォーム上に個別にダウンロードし、インストールする PointBase について説明しています。ここで、PointBase の起動には、<code>pointbase_install_dir/tools/server/start_server</code> を使用してください。</p>

ORB/IIOP リスナー

この節では、ORB/IIOP-Listener に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4743366	<p>server.xml ファイル内の iiop-listener 要素の address 属性には ANY を指定できない</p> <p>デフォルトの設定では、Sun ONE Application Server の iiop-listener 要素のアドレス値は 0.0.0.0 です。このデフォルト設定では、IPv6 インタフェース上で待機しません。システムの IPv4 インタフェース上で待機するだけです。iiop-listener の address 要素の値を ANY にすると、サーバーはシステム上の全インタフェース (IPv4 または IPv6) で待機できますが、この機能はサポートされていません。</p> <p>server.xml ファイル内の iiop-listener 要素の address 属性値を ANY にすると、システムの全インタフェース上での待機が可能になり、IPv4 インタフェースと IPv6 インタフェースが両方ともサポートされます。</p> <p>解決法</p> <p>IPv4 インタフェースと IPv6 インタフェースで、iiop-listener 要素の address の値を "::" にします。この方法は、Solaris 8.0 以上にのみ適用可能です。</p>

ID	要約
4743419	<p data-bbox="319 239 1300 298">IPv6 アドレスの DNS アドレス検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは RMI-IIOP クライアントが機能しない</p> <p data-bbox="319 322 1300 378">IPv6 アドレスの DNS 検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは、RMI-IIOP (Remote Method Invocation-Internet Inter-ORB Protocol) のクライアントが機能しません。</p> <p data-bbox="319 395 396 420">解決法</p> <p data-bbox="319 444 1300 496">IPv6 アドレスを検索できるように、配備サイトに DNS (Domain Name Service) を設定します。</p>
4810199	<p data-bbox="319 513 1300 572">Sun ONE Application Server 7.0 Standard Edition にバンドルされている最適化した CORBA Util delegate をデフォルトで使用できない</p> <p data-bbox="319 597 1300 677">Sun ONE Application Server のデフォルトのインストールでは高パフォーマンス CORBA Util delegate を使用しません。その結果、JDK バンドル版あるいは Sun ONE Application Server バンドル版の ORB を使用すると、パフォーマンスが著しく低下します。</p> <p data-bbox="319 701 1300 781">詳細については、『Sun ONE Application Server パフォーマンスチューニングガイド』の「ORB のチューニング」モジュールにある「優れたパフォーマンスの CORBA Util Delegate クラス」セクションを参照してください。</p> <p data-bbox="319 805 396 829">解決法</p> <p data-bbox="319 854 1300 933">高パフォーマンス CORBA Util Delegate 実装を使用可能にすると、パフォーマンスが著しく向上します。Sun ONE Application Server 設定ファイルの <code>server.xml</code> に次のコマンドを追加します。</p> <pre data-bbox="319 958 1300 1015"><jvm-options>-Djavax.rmi.CORBA.UtilClass=com.ipplanet.ias.util.orbutil.IasUtilDelegate</jvm-options></pre>

国際化 (i18n)

この節では、国際化に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4757859	<p>コンソールのマルチバイトメッセージが正しく表示されない</p> <p>デフォルトのシステムエンコードが UTF-8 でないと、Sun ONE Application Server 出力でマルチバイトの文字が正しく表示されません。</p> <p>解決法</p> <p>ブラウザで <code>server.log</code> ファイルを開きます。</p>
4761017	<p>Solaris バンドル版の場合：管理インタフェースが英語で表示される</p> <p>Solaris バンドル版には、管理サーバーインスタンス用の言語エントリがないので、Sun ONE Application Server のローカライズ版では管理インタフェースも英語で表示されます。</p> <p>解決法</p> <p><code>server.xml</code> ファイルに手動でロケールのエントリを設定します。</p>
4783129	<p>Microsoft Windows の場合：日本語の about.html が表示されない</p> <p>インストール後、<code>about.html</code> が起動しますが、日本語ではなく英語で表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>URL を以下のように変更します。</p> <p><code>.../about.html</code> から</p> <p><code>.../ja/about.html</code> へ変更します。</p>
4840621	<p>英語ロケール以外で Sun ONE Application Server を実行すると、「アーカイブ」が動作しない</p> <p>英語ロケール以外で Sun ONE Application Server を実行すると、次の場所でログファイルの「アーカイブ」が正しく動作しません。</p> <p>「アプリケーションサーバーインスタンス」-> 「ログ」-> 「ログローテーションウィンドウ」-> 「スケジューラベースのログローテーション」</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none"> 次のディレクトリに移動します。<code>\$install_dir/domains/domain1/server1/bin</code> <code>rotatelog</code> ファイルを開きます。 次の行のコメントをはずします。<code>#LANG=C; export LANG</code> 次の行を追加します。<code>LC_ALL=C; export LC_ALL</code> 「アーカイブ」ボタンをクリックします。

ID	要約
なし	<p data-bbox="319 244 1053 269">Solaris では Netscape 4.79 ブラウザに関連して、次の制限がある</p> <ul data-bbox="319 291 1305 418" style="list-style-type: none"><li data-bbox="319 291 1305 348">• Solaris で Netscape 4.79 を使用すると、ローカライズされた JavaScript メッセージが文字化けします。JavaScript では UTF-8 エンコードを処理できません。<li data-bbox="319 366 1305 418">• Chinese GB18030 ロケールの Solaris で Netscape 4.79 を使用しても、GB18030 文字を使用できません。 <p data-bbox="319 440 396 465">解決法</p> <p data-bbox="319 487 1305 550">Sun の Web サイトから Solaris 版の Netscape 6.23 または 7.0 をダウンロードします。これで両方の問題が解決します。</p>

Solaris x86 プラットフォーム (Solaris バンドル版および Java Enterprise System のみ)

この節では、Solaris バンドル版の Sun ONE Application Server の x86 版および Java Enterprise System での、既知の問題と制限事項を示します。

ID	要約
なし	<p>Solaris x86 制限事項</p> <p>Sun ONE Studio プラグインがない Sun ONE Studio は Solaris x86 プラットフォームで利用できないため、Sun ONE Studio プラグインは Solaris x86 版の Sun ONE Application Server には含まれていません。</p> <p>Web サーバープラグイン Sun ONE Web Server は Solaris x86 プラットフォームでは利用できないため、Web サーバープラグイン (リバースプロキシプラグイン) は Sun ONE Web Server ではサポートされず、Apache Web Server でのみサポートされます。</p> <p>Solaris サポート Solaris x86 リリースは Solaris 9, Update 2 以降でのみサポートされていますが、それ以前のバージョンの Solaris ではサポートされていません。</p> <p>評価用インストール Solaris x86 プラットフォームには、評価用インストールはありません。</p>
4890285	<p>Solaris x86 用のマニュアルの問題</p> <p>Solaris x86 がサポートされるプラットフォームのリストにない Sun ONE Application Server をサポートするプラットフォームを一覧表示したマニュアルには、Solaris x86 プラットフォームが含まれていない場合があります。プラットフォームに関する最新の情報は、『Sun ONE Application Server 7, Update 1 プラットフォーム』を参照してください。</p> <p>SPARC の記述 『Developer's Guide to NSAPI』には、Solaris SPARC 版についての記述がありますが、Solaris についての記述として読み替えてください (Solaris には SPARC および x86 の両方が含まれています)。</p> <p>評価用インストールへの参照 『インストールガイド』および『入門ガイド』には、インストールプログラムで評価用 (高速) インストールが利用可能であるという記述があります。このインストールオプションは、Solaris x86 プラットフォームの Sun ONE Application Server では利用できません。</p> <p>Sun ONE Studio プラグイン マニュアルには、Sun ONE Studio プラグインを使用するための記述がありますが、Solaris x86 では利用できません。</p> <p>Web Server プラグインは Sun ONE Web Server では使用できない マニュアルには、Sun ONE Application Server で Web Server プラグインを使用するための記述がありますが、使用できません。</p>

マニュアル

この節では、マニュアルに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4720171	<p data-bbox="317 348 1172 378">インデックス付き配備ディレクトリの使用方法を説明したマニュアルがない</p> <p data-bbox="317 397 1303 569">配備済みアプリケーションのディレクトリ名のナンバリングスキーマ部分は、開発者が配備済みアプリケーションに関連付けられた JAR ファイルやクラスファイルを変更するときに使用するインデックス機構として実装されています。Windows プラットフォームでは、このインデックス機構が重要な役割を果たします。Windows プラットフォームでは、読み込み済みのファイルを上書きしようとするすると共有違反エラーが発生するため、読み込み済みのファイルはロックされます。ファイルは、セッションの起動時にサーバーインスタンスや IDE に読み込まれます。共有違反エラーが発生した場合、次のいずれかの措置をとります。</p> <ul data-bbox="317 581 1303 713" style="list-style-type: none"> • 更新されたクラスファイル (元々は JAR ファイルの一部) をコンパイルし、古いクラスよりも先に読み込まれるようにクラスパス内に配置します。次に、Sun ONE Application Server を使ってこのアプリケーションを再読み込みします (再読み込みが有効な場合)。 • JAR ファイルを更新し、新しい EAR ファイルを作成して、アプリケーションを再配備します。 <p data-bbox="317 725 1293 774">注: Solaris プラットフォームでは、ファイルロックの制約がないため、アプリケーションを再配備する必要はありません。</p> <p data-bbox="317 786 396 814">解決法</p> <p data-bbox="317 833 1293 956">IDE の設定、ANT ファイルのコピー、コンパイルその他の操作を行うために Windows プラットフォーム上の配備済みアプリケーションに変更を加えるときは、ファイルロックの制約を回避するため、新しく作成されるディレクトリのインデックス番号が増分する点に注意してください。次に例を示します。Solaris プラットフォームでは、J2EE アプリケーション helloworld は、次のディレクトリ構造で Sun ONE Application Server に配備されます。</p> <pre data-bbox="317 968 1276 996">appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_1</pre> <p data-bbox="317 1008 1303 1180">さらに、この配備済みアプリケーションの一部をなすサーブレット (HelloServlet.java など) に変更が加えられます。Sun ONE Studio IDE が起動し、このサーブレットのソースファイルが変更され、コンパイルされます。このとき、javac ターゲットには上記のディレクトリが設定されされます。ソースのコンパイル結果が適切な場所に格納されていれば、このアプリケーションの再読み込みファイルが存在しています。また、server.xml の再読み込みフラグは true に設定されています。サーバーインスタンスの実行時は、アプリケーションを再アセンブルして再配備しなくても変更内容が有効になります。</p> <p data-bbox="317 1192 1262 1242">Windows プラットフォームでは、ファイルロックの問題により、JAR ファイルやクラスファイルの交換や更新は行えません。この場合、次のいずれかの措置をとります。</p> <ul data-bbox="317 1255 1286 1367" style="list-style-type: none"> • ソースの変更を有効にするには、変更済みソースファイルをコンパイルし、クラスパス内のクラスファイルまたは JAR ファイルを挿入します。 • helloworld ソースに変更を加え、アセンブルし、再配備します。以前に配備した helloworld はそのままにしておきます。 <p data-bbox="317 1380 1293 1451">2 番目のオプションは、配備済みアプリケーションのディレクトリ名に付加されている増分されたインデックス番号を使用します。したがって、こちらの方式のほうが優先されます。2 番目の helloworld の配備のあと、ディレクトリ構造は次のようになります。</p> <pre data-bbox="317 1463 1276 1512">appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_1 appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_2</pre> <p data-bbox="317 1524 968 1553">2 番目の helloworld は helloworld_2 の下に配備されます。</p>

ID	要約
4717815	<p data-bbox="239 241 1158 265">Sun ONE Studio 4 と Sun ONE Application Server 7 を統合するための要件が必要</p> <p data-bbox="239 289 1229 345">Sun ONE Studio 4 と Sun ONE Application Server を統合するのに必要な情報を検索するのは困難です。完全な手順と、関連マニュアルの正確な場所を示す必要があります。</p> <p data-bbox="239 366 315 390">解決法</p> <p data-bbox="239 411 1229 496">Sun ONE Studio 4 のマニュアルについては、5 ページの「Sun ONE Studio 4 マニュアル」を参照してください。追加情報は、『Sun ONE Application Server 入門ガイド』および『管理者ガイド』を参照してください。</p>
4837479	<p data-bbox="239 517 1125 541">非 ACC クライアントから JMS 送信先にアクセスするためのマニュアルがない</p> <p data-bbox="239 562 1229 647">非 ACC クライアントから JMS 送信先にアクセスする方法については、Sun ONE Application Server 7 の次期リリース、『Sun ONE Application Server Developer's Guide to Clients』に追加される予定です。</p>
4849663	<p data-bbox="239 668 1079 692">非 ACC クライアントで JNDI ではなく文字列を使用すると誤記されている</p> <p data-bbox="239 713 1229 798">『Sun ONE Application Server Developer's Guide to Clients』の「Using the Application Client Container」の章で、非 ACC クライアントが初期ネーミングコンテキストを取得するのに JNDI ではなく、誤って文字列を使用しています。</p> <p data-bbox="239 819 315 843">解決法</p> <p data-bbox="239 864 1005 888">初期ネーミングコンテキストを取得するために JNDI 検索を使用します。</p>
4855015	<pre data-bbox="239 913 808 1010">env.put (Context .INITIAL_CONTEXT_FACTORY, "com.sun.jndi.cosnaming.CNCtxFactory"); env.put (Context .PROVIDER_URL, url);</pre> <p data-bbox="239 1031 676 1055">DNS 指令のデフォルトが間違っている</p> <p data-bbox="239 1076 1229 1161">『Sun ONE Application Server 管理者用設定ファイルリファレンス』の「init.conf の構文と使い方」の章で、DNS 指令のデフォルトがオンであると誤記されています。正しいデフォルトはオフです。</p>
なし	<p data-bbox="239 1182 946 1206">『入門ガイド』に、間違った SDK バージョンが記載されている</p> <p data-bbox="239 1227 1229 1312">Update 1 の『Sun ONE Application Server 入門ガイド』では、Java 2 Software Development Kit, Standard Edition 1.4.0_02 がサポートされていることになっています。Update 1 でサポートされているバージョンは 1.4.1_01 です。</p> <p data-bbox="239 1333 315 1357">解決法</p> <p data-bbox="239 1378 464 1402">解決法はありません。</p>

問題の報告方法

ご使用のシステムに問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でカスタマサポートにお問い合わせください。

- 次のオンラインサポート Web サイトをご利用ください。

<http://jp.sun.com/supporttraining/>

- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

サポートのご依頼の前に、次の情報を用意してください。サポート担当がお客様の問題を解決するために必要な情報です。

- 問題が発生した箇所や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および、問題の原因と思われるパッチやそのほかのソフトウェアなどの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログやコアダンプ

詳細情報について

Sun ONE についての有益な情報は、以下のインターネットアドレスから入手することができます。

- Sun ONE 製品とサービス情報
<http://jp.sun.com/service/sunps/sunone/index.html>
- Sun ONE 開発者情報
<http://jp.sun.com/software/sundev/>
- Sun ONE トレーニングソリューション
<http://jp.sun.com/supporttraining/index.html>
- Sun ONE 製品データシート
<http://jp.sun.com/software/>
- Sun Microsystems 製品マニュアル
<http://docs.sun.com/>
- Sun ONE Application Server 製品マニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/s1.asse?l=ja#hic>

改訂履歴

この節では、Sun ONE Application Server 7 製品の初期リリース後に、リリースノートで変更が加えられた箇所について示します。

改訂日付	変更の詳細
2003 年 4 月	Sun ONE Application Server 7, Update 1 の初期リリース
2003 年 10 月	Solaris バンドル版 x86 プラットフォームリリースおよび Java Enterprise System についての情報が新たに記載されています。

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Solaris、iPlanet、Java および Java Coffee Cup ロゴは米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。Sun ONE Application Server の使用は、付属のライセンス契約の諸条件に基づいて許可されます。